



Peregrine | AssetCenter
ファイナンス

© Copyright 2002 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本製品に関する技術情報の請求、またはライセンスをお持ちの製品に関するマニュアル類の請求については、Peregrine Systemsのカスタマサポート (support@peregrine.com) までお寄せください。

本マニュアルに関するご意見やご要望は、Peregrine Systems, Inc.の出版部 (doc_comments@peregrine.com) までお寄せください。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.2.0に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.
Worldwide Corporate Campus and Executive Briefing Center
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130
Tel 800.638.5231 or 858.481.5000
Fax 858.481.1751
www.peregrine.com



目次

はじめに (ファイナンス)	11
ファイナンスモジュールの対象ユーザ	11
ファイナンスモジュールの使用目的	11
本マニュアルの使用方法	12
1. 金額値	13
通貨	13
特殊な通貨	14
為替レート	15
為替レートを入力する	15
金額フィールドに値を入力する	17
[換算通貨] ポップアップメニュー	17
金額フィールド	17
通貨の換算規則	18
ユーロゾーンの特異性	18
両方の通貨がユーロゾーンに属する場合	18
どちらかの通貨がユーロゾーンに属する場合	19
ユーロゾーン外の通貨	19
換算	20
概要	20
換算日	20

金額を更新する	21
複数通貨の機能を限定する	21
2. 経費	23
経費の概要	23
予算	23
コストセンタ	27
予算	28
インプリメンテーション方法	28
実用例	28
予算のトラッキング	31
コストセンタ	33
経費明細	33
経費明細の詳細画面	34
経費明細を作成する	34
経費明細を変更する	35
コストセンタ間での分割処理	36
分割処理の概要	36
経費明細の分割を自動化する	37
分割処理の詳細設定と計算	37
コストセンタを削除する	38
3. 固定資産を関連付ける	41
AssetCenterデータベースの資産と固定資産の関連付けについて	42
固定資産の詳細情報	43
4. 税金	45
税金管理が必要な分野	45
概念と実用例	46
税区分	46
税率のタイプ	47
税率	47
税金の計算式	48
実用例	48
税金の計算式を適用する	50
場所に応じて税金を指定する	51
概要	51
税区分の税率のタイプを管理する	51
税区分の税金を表示する	52
賃貸料の税金の計算方法を指定する	52
固定税金	52
税金の計算式	53

賃貸期間中の税率の変化を管理する	56
調達サイクルで税金を使う	57
はじめに	57
自動処理	57
税金を入力する	58
5. TCO (総所有コスト)	59
TCO (総所有コスト) に含まれる原価	59
ハードウェアおよびソフトウェアの原価	60
管理費	60
エンドユーザ原価	60
AssetCenterでTCO (総所有コスト) を管理する	61
取得原価と外部管理費	61
内部管理費	61
AssetCenterで原価を計算する	62
TCOの評価	63
業務単価の定義	63
作業指示を使った内部管理費の詳細情報	63
資産のTCO	64
6. 経費付替え	67
経費付替えシステムの導入	68
経費付替え規則を定義する	68
経費付替えシステムのイベントを解決する	72
実用例	72
7. 用語解説 (ファイナンス)	77
経費	77
会計年度	77
期間区分	78
期間	78
予算分類	78
予算カテゴリ	79
コストカテゴリ	79
予算	80
コストセンタ	80
予算センタ	81
経費明細	81
通貨	82
為替レート	82
減価償却	82
減価償却	82

減価償却引当金	83
固定資産	83
税金	84
税区分	84
税金	84
税率	85
税金の計算式	85
TCO	85
TCO	85
経費付替え	86
経費付替え	86
経費付替えシステム	86
経費付替え規則	86
経費付替えスクリプト	86
経費付替えイベント	87
分割処理	87
分割処理規則	87
8. 参考情報	89
メニューとタブページ (ファイナンス)	89
ツールバーのアイコン (ファイナンス)	95
インタフェースのオプション (ファイナンス)	95
テーブル (ファイナンス)	96
テーブル間の依存関係 (ファイナンス)	99
リストデータ (ファイナンス)	103
特殊フィールド (ファイナンス)	104
カウンタ (ファイナンス)	104
アクションとウィザード (ファイナンス)	105
AssetCenter Serverモジュール (ファイナンス)	105
システムデータおよび専門分野データ (ファイナンス)	106
レポートと書式 (ファイナンス)	107
自動アクション (ファイナンス)	107
API (ファイナンス)	107
ビュー (ファイナンス)	108
その他のマニュアル (ファイナンス)	108

図の一覧表

2.1. 予算 - 構成要素	24
2.2. 予算 - 一覧表	25
2.3. 予算センタ - 構造	26
2.4. 予算センタと予算 - 区分	27
2.5. コストセンタ - 詳細画面	33
2.6. コストセンタ間の分割処理	36
3.1. 固定資産 - 詳細画面	42
5.1. 作業指示に関連して発生した内部管理費 - 詳細情報	64
6.1. 経費付替えの背景	73

表の一覧表

4.1. 税金の自動処理	58
8.1. メニューとタブページ (ファイナンス) - 一覧	89
8.2. テーブル (ファイナンス) - 一覧	96
8.3. テーブル間の依存関係 (ファイナンス) - 表	100
8.4. リストデータ (ファイナンス) - 一覧	103
8.5. カウンタ (ファイナンス) - 一覧	104
8.6. その他のマニュアル (ファイナンス) - 一覧	108

はじめに（ファイナンス）

ファイナンスモジュールの対象ユーザ

AssetCenterのファイナンスモジュールは、主に経費を追跡管理する会社などの組織を対象としています。

一般的に以下の従業員がこのモジュールを使用します。

- 財務の責任者
- 管理者

ファイナンスモジュールの使用目的

ファイナンスモジュールでは以下のタスクを実行できます。

- 予算の作成
- 経費のトラッキング
- 固定資産のトラッキング
- 社内振替の管理

タスクの管理では以下の操作を実行できます。

- 資本の支出内容を確認する
- コストを削減する

本マニュアルの使用方法

「金額値」の章

通貨と為替レートを使用する

「経費」の章

予算に応じて経費をトラッキングする

「固定資産を関連付ける」の章

固定資産をトラッキングする

「税金」の章

キャッシュフローへ税金を統合する

「TCO（総所有コスト）」の章

TCOを使用する

「用語解説（ファイナンス）」の章

AssetCenterで経費付替えを自動化する

ファイナンスモジュール用の用語は専門的です。用語集ではAssetCenterのキーワードが説明されています。

この用語集で用語の意味を確認してください。

「参考情報」の章

参考情報が記載されています。

ファイナンスモジュールに関連する全コンポーネントの詳細、または高度な情報などが必要な場合はこの章を参照してください。

1 | 金額値

金額を入力するときに通貨を選択できます。ただし、使用する通貨と通貨間の為替レートをAssetCenterで事前に定義しておく必要があります。

AssetCenterは、複数の通貨で換算額を表示できます。

AssetCenterでは、金額値の複数通貨を管理するために次の機能をサポートしています。

- 通貨の定義
- 為替レートの定義
- 金額フィールドの入力（AssetCenterは自動的に換算額を計算します）。

通貨

通貨は、なるべくAssetCenterの導入時に予め定義しておいてください。

通貨のテーブルを表示するには、**[ファイナンス/通貨]**メニューを選択します。

通貨の詳細画面の3つのフィールドでは、通貨の名前、略号と、記号を定義できます。

通貨の詳細画面の2つのフィールドでは、金額のフォーマットの規則を定義します。

- **【桁数】**（SQL名：sPrecision）フィールドでは、少数点以下の桁数を定義します。
- **【記号の位置】**（SQL名：seSymbolPos）フィールドでは、通貨記号の位置が金額の前か後かを指定します。

特殊な通貨

通貨は必要な数だけ定義できます。一部の通貨には特殊な規則が適用されます。

- デフォルトの通貨
- 基本通貨
- ユーロ

デフォルトの通貨

通貨を指定しないで金額を入力すると、必ずデフォルトの通貨が適用されます。データベースで定義するデフォルトの通貨。データベースで指定できるデフォルトの通貨は1種類です。指定するには、通貨の詳細画面の**【デフォルトの通貨】**チェックボックスをオンにします。

AssetCenterの各ユーザが定義するデフォルトの通貨。ユーザごとにデフォルトの通貨を指定するには、従業員の詳細画面の**【プロフィール】**タブページにある**【デフォルトの通貨】**（SQL名：DefCurrency）フィールドを使います。ユーザにとって、ユーザのデフォルトの通貨が、データベースのデフォルトの通貨の代わりになります。

通貨を指定しないで金額を入力すると、ユーザの詳細画面の**【プロフィール】**タブでデフォルトの通貨が定義されていない場合は、データベースレベルで定義されたデフォルトの通貨が適用されます。

基本通貨

換算するときを使う2種類の基本通貨を定義できます。

基本通貨を定義するには、通貨の詳細画面で**【基本通貨1】**または**【基本通貨2】**チェックボックスをオンにします。

警告:

基本通貨は、なるべくAssetCenterデータベースにデータを保存する前に定義してください。実際に、データベースにレコードを保存してから基本通貨を定義しても、そのレコードの金額の換算額は更新されません。

ユーロ

ユーロゾーン内の通貨同士で換算する場合は、[ファイナンス/通貨]メニューから通貨の詳細画面にアクセスして、「European Euro」を選択する必要があります。

重要項目:

ユーロの【名前】(SQL名: Name) フィールドの値は「EUR」に設定する必要があります。

為替レート

為替レートのテーブルにアクセスするには、[ファイナンス/為替レート]メニューを選択します。

為替レートには、以下の情報が統合されています。

- レートの適用開始日
- 元の通貨
- 換算通貨
- 換算額
- 逆為替レート
- 換算通貨がユーロゾーンに属するかどうか

為替レートを入力する

為替レートは、必要に応じて入力できます。関連情報を記載したファイルをインポートすることもできます。

逆為替レート

通貨Aから通貨Bへの為替レートを入力すると、AssetCenterはBからAへの逆為替レートを自動的に計算します。

為替レートをわずか(1%以下)に変更した場合は、AssetCenterは逆為替レートを再計算しません。このため、正確を期するためには逆為替レートを調整する必要があります。

為替レートを大幅(1%を上回る)に変更した場合は、AssetCenterは逆為替レートを再計算します。

例

2つの通貨AとBの為替レートは2です。逆為替レートは、AssetCenterが自動的に計算し、0.5になります。

- 逆為替レートをわずか（1%以下）に変更した場合の例
逆為替レート = 0.505
為替レートは変更されません。
- 逆為替レートを大幅（1%を上回る）に変更した場合の例
逆為替レート = 0.51
為替レートは次のように再計算されます。
AからBへの為替レート = 1.960784

ユーロゾーンの場合

1999年1月1日のユーロゾーンの導入は、為替レートに多大な影響を及ぼしています。ユーロゾーン内では次の為替レートのみが承認されます。

- ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レート
AssetCenterでは、ユーロとユーロゾーン内の通貨に固有の為替および換算規則を管理できます。為替レートの詳細画面の[ユーロゾーンに含める]チェックボックスをオンにすると、AssetCenterでは自動的に次のように処理されます。
 - [元の通貨]（SQL名：SrcCurrency）フィールドには「EUR (European Euro)」と表示されます。これは変更できません。
 - [換算通貨]（SQL名：TargetCurrency）にはユーロゾーン内の通貨しか入力できなくなります。
 - ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レートを入力できます。逆の為替レートは入力できません。

重要項目:

ユーロの導入に伴い、ユーロゾーン内の通貨からユーロへの為替レートは無効になります。ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レートのみが使用されます。

- ユーロゾーン外の通貨とユーロとの為替レートおよび逆為替レート

重要項目:


ユーロの導入に伴い、ユーロゾーン外の通貨とユーロゾーン内の通貨（ユーロ以外）との為替レートは無効になります。

- ユーロゾーン外の通貨間の為替レート

ヒント

2つの通貨の為替レートを容易に算出し、換算に使う値を容易に決定するために、2つの通貨AとBの為替レートは常に同じ方向で入力することをお奨めします。

金額フィールドに値を入力する

金額を入力する場合は、金額の数値とその金額に対応する通貨を入力します。金額フィールドの  をクリックして通貨を選択します。

重要項目:

通貨を指定しない場合は、デフォルトの通貨が適用されます。

[オブジェクトの設定] ポップアップメニューを選択すると、各金額フィールドごとにデフォルトの金額と通貨を指定できます。

金額を入力する専用のコントロールを使うことができます。このコントロールは、通貨の詳細画面で定義したフォーマットによって変わります。

金額の右の矢印またはキーボードの矢印キーを使って、カーソルを置いているフィールドの数値を増減できます。

[換算通貨] ポップアップメニュー

以下の手順で、ある通貨で入力した金額を別の通貨に換算できます。

- 1 金額フィールドでマウスの右ボタンをクリックします。
- 2 ポップアップメニューから、**[換算通貨]** を選択します。
- 3 リストから適切な換算通貨を選択します。
- 4 金額が換算され、選択した換算通貨で表示されます。

計算方法は、換算方法と同様です。換算日は、金額を換算する日付です。為替レートはAssetCenterが自動的に選択します。

詳しくは、「**通貨の換算規則**」の節を参照してください。

金額フィールド

- SQL名「mXXX」の金額フィールドは特定のウィンドウ内に表示され、入力された金額を保存します。
金額フィールドには、次の5つの従属フィールドがあります。

- SQL名「XXXcur」のフィールドは、金額の通貨を含みます (■をクリックします)。
- SQL名「mXXXRef1」と「mXXXRef2」の2つのフィールドは、2つの基本通貨で換算額を保存します (■をクリックします)。
- SQL名「dtXXXCv」のフィールドは、換算日を保存します (■をクリックします)。

例：資産の購入価格が10000円、換算日が2002年10月1日の場合は、次のようになります。

- [mPrice] フィールドには10000が入ります。
- [PriceCur] フィールドにはJPYが入ります。
- [mPriceRef1] と [mPriceRef2] フィールドには換算額が入ります。
- [dtPriceCv] フィールドには2002/10/01が入ります。

通貨の換算規則

ある通貨で表された金額を別の通貨に換算するには、換算時に適用される為替レートが必要になります。

ここでは、換算の規則と為替レートについて説明します。換算規則は、換算する通貨によって異なります。

ユーロゾーンの特異性

通貨Aで表された金額をユーロゾーン内の通貨Bに換算するには、次の手順が必須です。

- 1 金額をユーロに換算します。
- 2 次に、ユーロで表された金額を通貨Bに換算します。

為替レートを事前に入力しておくこと、AssetCenterは、合法の計算規則に従って上記の一連の換算処理を自動的に行います。

両方の通貨がユーロゾーンに属する場合

通貨Aと通貨Bの両方がユーロゾーンに属しており、Aの金額をBに換算する場合は、次のように処理されます。

- 1 AssetCenterは、次のようにして通貨Aの金額をユーロに換算します。
 - ユーロから通貨Aへの換算レートによる除算を行います。
 - 小数点以下第3位を四捨五入します。
- 2 次に、AssetCenterは、ユーロの金額を通貨Bに換算します。

- ユーロから通貨Bへの換算レートを適用します。
- 通貨Bの詳細フィールドに指定されている桁数に従って、値を四捨五入します。

どちらかの通貨がユーロゾーンに属する場合

換算通貨がユーロゾーンに属する場合

ユーロゾーン外の通貨Aの金額をユーロゾーン内の通貨Bに換算する場合は、次のように処理されます。

- 1 AssetCenterは、次のようにして通貨Aの金額をユーロに換算します。
 - 通貨Aからユーロへの換算日現在の為替レートまたはユーロから通貨Aへの逆為替レートを適用します。
 - 小数点以下第3位を四捨五入します。
- 2 次に、AssetCenterはユーロの金額を通貨Bに換算します。
 - ユーロから通貨Bへの換算レートを適用します。
 - 通貨Bの詳細フィールドで指定されている桁数に従って、結果を四捨五入します。

元の通貨がユーロゾーンに属する場合

ユーロゾーン内の通貨Aの金額をユーロゾーン外の通貨Bに換算する場合は、次のように処理されます。

- 1 AssetCenterは、次のようにして通貨Aの金額をユーロに換算します。
 - ユーロから通貨Aへの逆為替レートを適用します。
 - 小数点以下第3位を四捨五入します。
- 2 次に、AssetCenterはユーロの金額を通貨Bに換算します。
 - ユーロから通貨Bへの換算レートを適用します
 - 通貨Bの詳細フィールドで指定されている桁数に従って、値を四捨五入します。

ユーロゾーン外の通貨

指定した1組の通貨（AとB）間の適切な為替レートを選択するために、AssetCenterでは換算日と次の規則を使います。

- Aが元の通貨、Bが換算通貨（結果）の場合で、換算日付けの為替レートが定義されている場合は、AssetCenterはこのレートを使います。

- Bが元の通貨、Aが換算通貨の為替レートが定義されている場合は、AssetCenterはこのレートに対して定義された逆為替レートを使います。逆為替レートは、BからAへの為替レートの【1 A = x B】フィールドに表示されます。
- 上のいずれにも該当しない場合は、換算されません。

例

- 通貨Aから通貨Bへの2002年7月1日現在の為替レートは、【1 A = 6 B】です。
- 通貨Bから通貨Aへの2002年8月1日現在の為替レートは、【1 B = 0.2 A】です。
- 2002年9月1日現在で100 Aを通貨Bに換算する場合、AssetCenterでは為替レート【1 A = 6 B】が適用され、金額は600 Bになります。


換算

ここでは、次の事項について説明します。

- 概要
- 換算日
- 更新

概要

金額を入力すると、AssetCenterは基本通貨の金額に自動的に換算します。

金額フィールドの右の  アイコンをクリックすると、換算日、金額、換算額を示す画面が表示されます。

換算額は、次の値から自動的に計算されます。

- 換算日
- 入力した金額の通貨単位と基本通貨の換算日現在の為替レート

換算日

換算日によって為替レートが決まります。

換算日はSQL名「dtxxxCv」のフィールドに保存され、各金額に関連付けられます。

デフォルトの換算日に関連付けると、金額を定義する時点でこのフィールドに自動的にデフォルト値が入力されます。この結果、資産の購入価格の換算日を確実にこの資産の購入日にするなどの処理が可能になります。

デフォルトでは、金額の換算日は現在の日付になります。金額に関連付けられる換算日のデフォルト値は、AssetCenter Database Administratorを使って定義します。

金額を更新する

不適切な換算額を手動で変更した後に金額を変更すると、変更された換算額は失われます。

以下の場合AssetCenterはデータベースに格納された換算額を更新します。

- 為替レートが変更された場合
- 換算日がスクリプトで計算され、スクリプトに使うフィールド値が変更された場合

AssetCenterには、以上の変更を自動的に換算額に反映する機能はありません。

自動的に変更するように設定するには、ワークフローのワークフローチャート機能を使います。

複数通貨の機能を限定する

複数の通貨を定義するすべての機能を使う必要のない場合は、次の2通りの使い方ができます。

- 通貨を定義しない。この場合は次のようになります。
 - 金額には通貨が付きません。
 - 金額のフォーマットは、Windowsのコントロールパネル（[地域]の[通貨]タブ）で定義されているフォーマットが適用されます。金額を入力する専用のコントロールも変更されます。
 - データベースでは、金額フィールドに関連する4つのフィールド（通貨、2つの換算額、換算日）は空になります。
- 基本通貨を定義しないで通貨を作成します。この場合は次のようになります。
 - 通貨ごとに異なるフォーマットの規則を定義できます。
 - データベースレベルでは、金額情報用の5つのフィールドのうち、金額と通貨のフィールドだけに値が入り、他の3つのフィールド（2つの換算額と換算日のフィールド）は空になります。

2 | 経費

本章では、AssetCenterで経費を管理する方法について説明します。

経費の概要

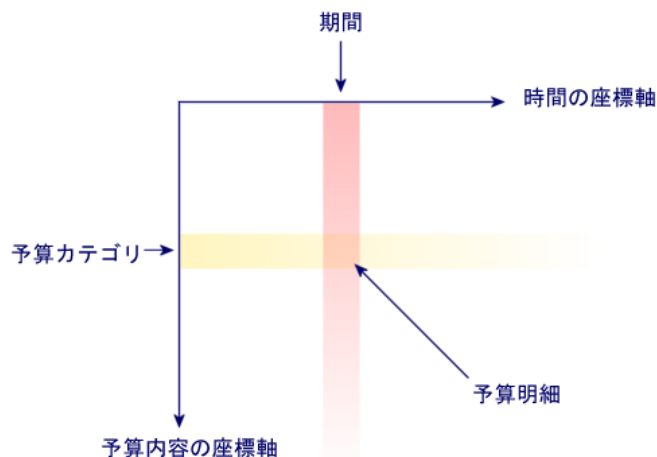
本節では経費管理に関連する概念を説明します。

予算

予算は、一定期間（一般的に翌年）の収入と支出を各予算カテゴリごとに計画したものです。このため、予算は以下の2つの座標軸から成り立っています。

- 1 時間の座標軸。各企業の予算追跡または予算報告の規則に応じて区切られます（半年、四半期、1月ごとなど）。
- 2 予算カテゴリ（または予算科目）用の予算内容の座標軸。各企業の予算カテゴリに応じて区切られます。

図 2.1. 予算 - 構成要素



 注意:

予算は以下の要素を含む表と見なされます。

- 1期間に対応する列（第1四半期、第2四半期、など）
- 1予算カテゴリに対応する行（例：社内出張、社外出張、コンサルティング、など）
- 1予算明細に対応する金額を含むセル（例：第1四半期の出張用の予定金額は100万円）。予算明細の金額は会計では引当金と呼ばれており、支給する予定額を指します。

会社組織での必要に応じて以下の概念も使用されています。

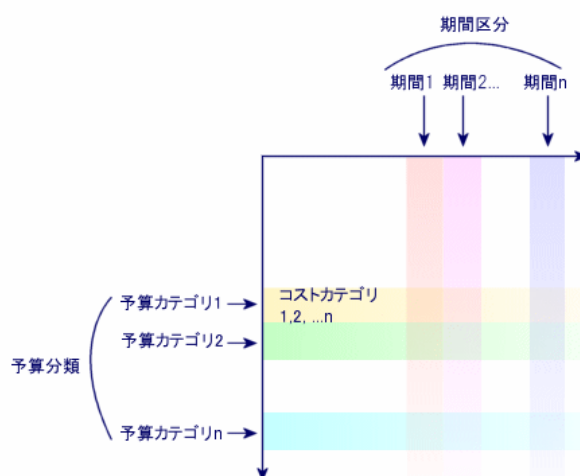
- 予算内容の座標軸上
 - 予算カテゴリは1つまたは複数のコストカテゴリから構成されています。上記の例を取ると、予算カテゴリ「社内出張」には、「国内での社内出張」、「海外での社内出張」などのコストカテゴリが含まれます。
 - 予算分類は、複数の予算カテゴリから構成されています。例えば、予算分類「出張」には、「社内出張」、「社外出張」などの予算カテゴリが含まれます。

 注意:

予算分類が、予算カテゴリを介して全部のコストカテゴリをまとめるようにすることをお勧めします。予算分類に入らないコストカテゴリがあると、予定された収入や支出の一部が予算内に含まれなくなります。AssetCenterは、全コストカテゴリが予算分類に含まれているかどうかを点検しません。

- 期間の座標軸上
 - 1期間区分は、各企業が定義する「期間」をまとめたものです。
 - 1会計年度は複数の期間区分をまとめます。一般的に1年の期間に相当します。

図 2.2. 予算 - 一覧表



企業では、予算は1年間の会計年度ごとに定義されるのが一般的です。この各年度予算をまとめる組織体は、予算センタと呼ばれます。予算センタは多くの場合企業内の部署に相当します。

図 2.3. 予算センタ - 構造

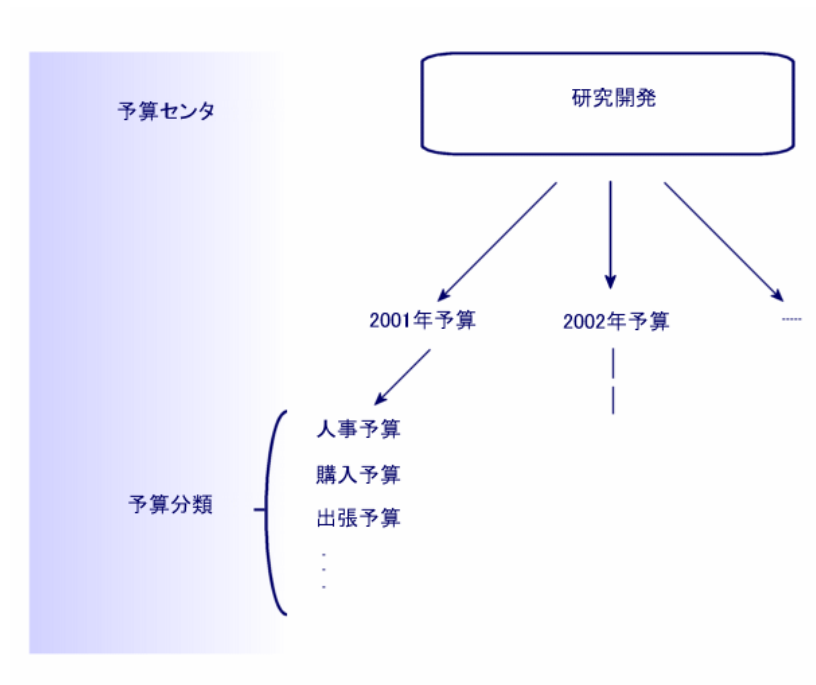
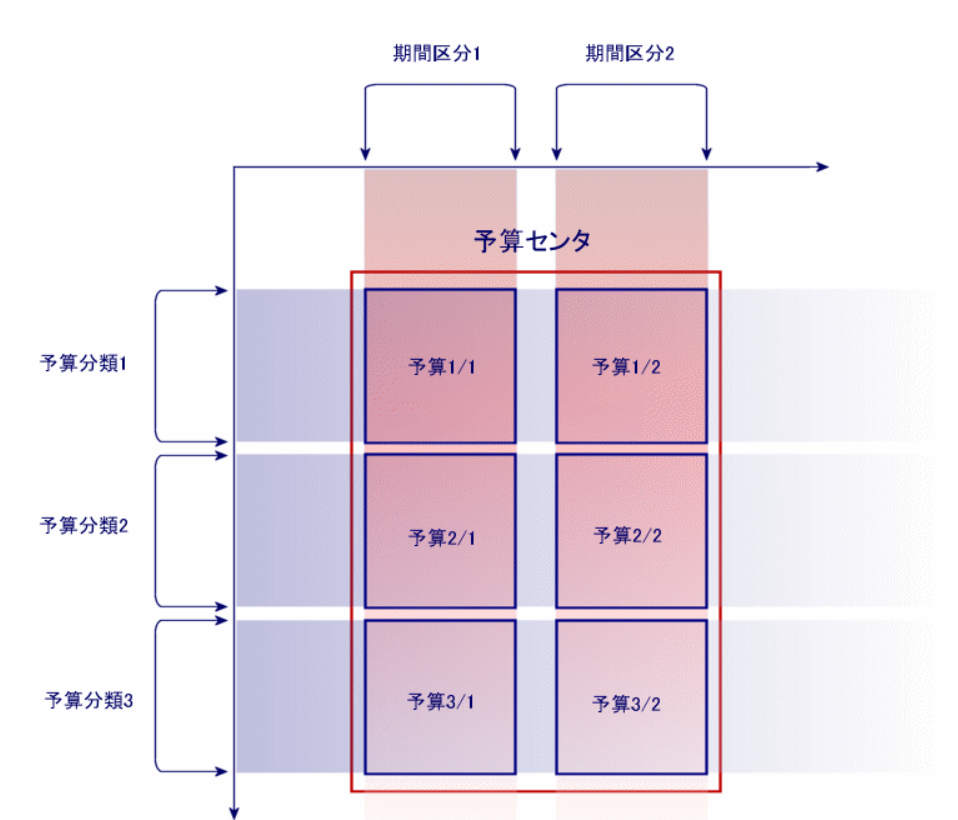


図 2.4. 予算センタと予算 - 区分



予算センタの概念はコストセンタに比較することができます。予算センタが統括する期間は未定ですが、予算センタに含まれる要素は、それぞれ一定の期間に直接関連付けられています。

コストセンタ

コストセンタは、企業の各部署の経費全体をまとめ、管理するために使用されます。

予算を管理する場合、コストセンタは予算センタの一部を構成する必要があります。

予算

本節ではAssetCenterでの予算の使用方法を説明します。

インプリメンテーション方法

ここでは、AssetCenterで予算システムを導入する方法を説明します。各企業の特성에応じて別の方法を取ることも可能ですが、その場合には以下の点に注意してください。

- 予算管理用の全構造要素を作成する必要があります。期間の座標軸の要素（会計年度、期間区分、期間）と、予算内容の座標軸の要素（予算分類、予算カテゴリ、コストカテゴリ）を作成します。
- 各予算分類には、定義されたコストカテゴリ全てが含まれていなければなりません。

ここで説明する導入方法では、以下の手順に従います。

- 期間の座標軸に関連する情報を、以下の順番で作成します。
 - 1 会計年度
 - 2 期間区分
 - 3 期間
- 予算内容の座標軸に関する情報を、以下の順番で作成します。
 - 1 コストカテゴリ
 - 2 予算分類
 - 3 予算カテゴリ
- 予算センタを作成します。
- 予算を作成します。

実用例

この例では、ソフトウェアのデザインを手がける会社Softwareが、会社の研究開発部にAssetCenterによる予算管理を導入する方法を説明します。この会社での規則に従って、期間区分を以下の様に指定します。

- 1期間は1四半期に当たります。
- 期間区分は1年に当たります。
- 会計年度は現在の会計年度とします。

この例では以下の状況に従って「出張」用の予算を作成します。

- 日本国内の出張と海外へのお出張がある。
- 日本国内では、大阪と札幌へのお出張がある。

海外では、ロンドンとパリへの出張がある。

この状況に基づいて、以下の情報を入力します。

- 基本のコストカテゴリ：大阪出張、札幌出張、ロンドン出張、パリ出張
- 予算カテゴリ：国内出張（これは大阪と札幌の出張をまとめます）、海外出張（これはロンドンとパリの出張をまとめます）。
- 予算分類は「出張」になります。

上記を作成した現時点で、AssetCenterでの予算システムの導入が可能になります。

期間の座標軸の作成

この段階では、会計年度、期間区分と、期間を作成します。作成には以下の手順に従います。

- 1 【ファイル/会計年度】メニューを選択します。
- 2 【新規作成】をクリックし、以下の値を入力してレコードを作成します。

フィールド	値
名前	2001年会計年度
開始	2001/04/01
終了	2002/03/31

- 3 【作成】をクリックしてレコードを確定します。
- 4 【期間区分】タブを選択します。上記で作成した会計年度には期間区分が含まれていません。☞をクリックし、期間区分を会計年度に追加します。
- 5 期間区分の【名前】に「2001」と入力し、【追加】をクリックします。
- 6 会計年度の詳細画面で【変更】をクリックし、この変更事項を確定します。
- 7 会計年度の詳細画面の【期間区分】タブで期間区分「2001」を選択し、☒をクリックして、詳細を表示します。
- 8 次に、期間区分に関連付けられた期間を作成します。この例では1期間は四半期に当たるため、4つの期間を作成する必要があります。【期間】タブを選択します。
- 9 ☞をクリックして、期間を追加します。
- 10 【名前】フィールドに「第1四半期」と入力し、【開始】と【終了】フィールドに以下の値を入力します。




フィールド	値
開始	2001/04/01
終了	2001/06/30

- 11 【追加】をクリックします。

- 12 上記の手順9から11を繰り返して、第2四半期、第3四半期、第4四半期を作成します。
- 13 これで予算の期間座標軸の作成が完了しました。


予算内容の座標軸の作成

この段階では予算を構成する3つの要素、コストカテゴリ、予算カテゴリと、予算分類を作成します。作成には以下の手順に従います。

- 1 **【ファイナンス/コストカテゴリ】**メニューを選択します。
- 2 4つのコストカテゴリ、「大阪出張」、「札幌出張」、「ロンドン出張」と、「パリ出張」を作成します。
- 3 **【ファイナンス/予算分類】**メニューを選択します。
- 4 **【新規作成】**をクリックし、**【名前】**フィールドに「出張」を入力してレコードを作成します。
- 5 **【予算カテゴリ】**タブ内で  をクリックし、新規に作成された予算分類内に予算カテゴリを追加します。
- 6 **【名前】**に「国内出張」と入力し、**【追加】**をクリックします。
- 7 予算分類の画面で **【変更】**をクリックし、変更事項を確定します。「国内出張」をリストから選択し、 をクリックして、詳細を表示します。
- 8 次に「予算カテゴリ」タブを選択し、 をクリックして「大阪出張」と「札幌出張」を追加します。**【変更】**をクリックして変更事項を確定します。
- 9 手順5から8を繰り返して、「海外出張」予算カテゴリを作成し、「ロンドン出張」と「パリ出張」コストカテゴリをこの予算カテゴリに追加します。
- 10 これで予算の予算内容の座標軸の作成が完了しました。


予算センタの作成

この段階では、「研究開発部」予算センタを作成します。作成には以下の手順に従います。

- 1 **【ファイナンス/予算センタ】**メニューを選択します。
- 2 **【新規作成】**をクリックし、**【名前】**フィールドに「研究開発部」と入力します。
- 3 **【コストセンタ】**タブを選択し、 をクリックしてコストセンタを追加します。ここで選択されるコストセンタの経費は、予算センタ「研究開発部」に割り当てられます。AssetCenterのデモ用データキットのデフォルトのコストセンタ「運用」を選択し、**【選択】**をクリックします。



予算の作成

この段階では、予算「出張」を作成します。作成には以下の手順に従います。

- 1 「研究開発部」予算センタの詳細画面で、**【全般】**タブを選択し、 をクリックして、予算を追加します。

- 2 以下の値を予算用に入力します。

フィールド	値
名前	デフォルトでは、 [名前] フィールドの値は予算センタの名前と同じになります。この例では「 研究開発部 」です。 職務出張
期間区分	2001
分類	出張

- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 これで予算が作成されました。次に、予算明細（各予算科目と各期間用に予測される収入と支出の金額）を入力します。追加した予算を選択し、 をクリックします。「職務出張」予算の詳細画面で **[明細]** タブを選択します。
- 5 2001年会計年度の支出を予測して、2つの予算カテゴリ「国内出張」と「海外出張」に引当金を割り当てます。 をクリックして、予算に明細を追加します。
- 6 必須フィールドに値を入力し、必要な分だけ予算明細を作成します。この例では、**[期間]** フィールドに「第1四半期」、「第2四半期」、「第3四半期」、「第4四半期」と入力し、**[予算カテゴリ]** フィールドに「国内出張」と「海外出張」、**[名前]** フィールドに予算明細を識別するための名前を入力します。名前は予算カテゴリと同名でも構いません。**[引当金]** 用に金額も入力します。

 **注意:**

予算には **[ステータス]** フィールドがあり、「準備中」、「承認済」と「クローズド」のいずれかを指定できます。しかしこの値はあくまでも参考用であり、AssetCenterの自動処理機能には関連付けられていません。

- 7 この段階で予算の画面の **[トラッキング]** ボタンをクリックすると、予算の全体図を表示できます。ウィザードには、入力された予算明細の要約と、実行された引当金のグラフが表示されます。

予算のトラッキング

AssetCenterに予算構造が導入された後、予算枠内で支払われた経費のトラッキングを実行できます。

- 理論上では、全ての出費は経費明細として作成されます。

 注意:

調達サイクルや経費付け替えなどのAssetCenterの自動処理機能では、経費の作成、変更または分割が実行されます。詳細については、調達サイクルを説明するマニュアル（『調達』、『契約』など）、または本マニュアルの「経費明細」の節を参照してください。

- 経費明細には以下の内容が含まれます。
 - 金額
 - 支出日。この支出日から経費の属する「期間」が分かります。
 - コストカテゴリ。ここから経費の「予算カテゴリ」が分かります。
 - 経費の配賦先コストセンタ
 - 経費のステータス（「見積済」、「発生済」、「発生済みおよび変更不可」）

これらの情報により、経費が関連付けられている予算や予算明細が分かります。
- 予算の詳細画面で **[トラッキング]** をクリックすると、ウィザードが現れ、予算の引当金と実際の経費を比較するグラフを表示します。このグラフは、ウィザードを全画面表示しないと表示されません。

トラッキングの例

前期の例に従って3つの経費明細を手動で作成します。

- 1 **[ファイナンス/経費一覧]** メニューを選択します。
- 2 以下の情報を入力して3つの経費明細を作成します（**[タイトル]** フィールドには自由に入力します）。

フィールド	経費明細1	経費明細2	経費明細3
借方	4000	2000	950
支出日	2001/10/31	2001/06/25	2002/12/01
コストセンタ	運用	運用	運用
コストカテゴリ	ロンドン出張	大阪出張	札幌出張
ステータス	発生済および 変更不可	発生済	見積済

- 3 既に「職務出張」予算用に引当金が割り当てられています。各期間（この例では四半期）と各予算カテゴリ（国内出張と海外出張）にそれぞれ経費明細を作成したかどうかを確認します。
- 4 この予算の詳細画面に戻り、**[トラッキング]** ボタンをクリックします。ウィザードは予測された経費と実際の経費をグラフで表示します。

コストセンタ

図 2.5. コストセンタ - 詳細画面

コストセンタを使って経費明細を分類することができます。コストセンタは広義に解釈してください。

AssetCenterのコストセンタは、経費（現金流出）をトラッキングするためのもので、会計用語に厳密に準拠するわけではありません。


コストセンタを使って、資産の取得とメンテナンス、従業員の研修、メンテナンスの費用、保険、リース契約などに関連する様々な経費を分類できます。

注意:

各コストセンタにはコードが付いており、他のアプリケーションのデータベースとのインポートまたはエクスポート時に、識別キーの役割を果たします。

経費明細

経費明細のリストを表示するには、[**ファイナンス / 経費一覧**] メニューを選択します。また、コストセンタの詳細画面の [**経費**] タブには、コストセンタに配賦された経費明細のリストが表示されます。

 ボタンを押すと、リスト内のすべての経費明細の借方および貸方の総額を計算できます。

リース契約の新規賃貸料や、新規の分割処理などが発生するとAssetCenter Server モニタプログラムは自動的に経費明細を作成します。


重要項目:

経費明細が自動的に作成された場合、【ステータス】(SQL名: seStatus) フィールドは【発生済および変更不可】にはなりません。これ以外のステータスの明細を検索すれば、自動的に作成され、まだ有効になっていない経費明細を確認できます。

以下の操作を実行する場合には、これにより発生するコスト(経費)を指定する必要があります。

- 資産の取得
- 作業指示、メンテナンス作業
- 契約

経費明細を、コストを伴う構成要素(資産、契約など)に関連付ける手順は以下の通りです。

- 1 資産や契約などの詳細画面を表示します。
- 2 【コスト】タブを選択します。
- 3  ボタンをクリックすると、新規経費明細の詳細画面が表示されます。

経費明細の詳細画面

経費明細の【全般】タブには、次の情報が表示されます。

- 【借方】(SQL名: mDebit) および【貸方】(SQL名: mCredit) フィールド。
【貸方】に金額を入力すると、【借方】は0になり、また【借方】に金額を入力すると、【貸方】は0になります。
- 【ステータス】(SQL名: seStatus)。経費明細には、【発生済】、【発生済および変更不可】、【見積済】のステータスがあります。

経費明細が自動的に作成された場合、このフィールドは【発生済および変更不可】には設定されません。これにより、自動的に作成された経費明細を管理し、特定の明細のみの作成を有効にすることができます。

【コストセンタ】(SQL名: CostCenter) リンクは、コストセンタに経費明細を割り当てます。

経費明細を作成する

経費明細は、次のように様々な方法で作成できます。

経費明細のリストで【新規作成】をクリックすると、新しい経費明細を手動で作成できます。この場合、この経費明細の原因となる操作(資産の購入、契約など)を指定する必要があります。

自動作成

経費を伴うイベントが発生すると、経費明細が経費明細のテーブルに自動的に作成されます。

経費明細の金額は、指定された情報から自動的に計算されます。

経費明細の【ステータス】は、【見積済】または【発生済】に設定されます。

AssetCenter Serverにより自動的に作成

AssetCenter Serverは、次の支払に関連する経費明細を自動的に作成します。

- 契約または資産に関する定期的な賃貸料の支払
- 契約の資金繰りのために使用したローンの返済

経費明細の金額は、契約と資産の詳細画面の賃貸料およびローンのサブタブページに指定されている情報に基づいて自動的に計算されます。

AssetCenter Serverは、他のコストセンタに分割処理される経費明細を自動的に作成します。

経費明細を変更する

経費明細の作成後に経費に関する情報の一部を変更し、経費明細がまだ有効化されていない（経費明細の詳細画面の【ステータス】（SQL名：seStatus）フィールドが【発生済および変更不可】に設定されていない）場合は、この変更を適用できます。経費明細が有効になっている場合は、レコードを変更できません。作成後に経費明細を変更しても、経費明細の発生元のレコード（契約など）の詳細情報は変更されません。

経費明細を分割した場合の影響

- 経費明細「L」が別の経費明細の分割によって発生した経費明細の場合は、経費明細「L」の金額を手動で変更しても、次の経費明細には影響しません。
 - 経費明細「L」の分割によって発生した経費明細
 - 経費明細「L」の発生元の経費明細

警告:

コストセンタが削除された場合などにAssetCenter Serverにより経費明細が自動的に再計算されると、手動で加えた変更は失われます。

- 経費明細が他の経費明細の分割処理によって発生した経費明細でない場合は、その金額を変更すると、その経費明細の分割によって発生した経費明細にも変更が加えられます。

コストセンタ間での分割処理

ここでは、AssetCenterによるコストセンタ間での分割処理の方法を説明します。

分割処理の概要

1つの経費明細を、複数のコストセンタで分担できます。

経費明細を分割するには、その明細を1つの中間コストセンタに割り当てます。この中間コストセンタは、分割した経費の割り当て先のコストセンタのリストと、各コストセンタに割り当てられる経費のパーセンテージを定義します。

指定したコストセンタで段階的に分割処理を実行できます。例えば、コストセンタC1をC2とC3に分割し、C3をさらにC4とC5に分割できます。

分割処理後のコストセンタを区別するために、分割する前の元のコストセンタは「分割前のコストセンタ」、分割後の各コストセンタは「現在のコストセンタ」と表示されます。

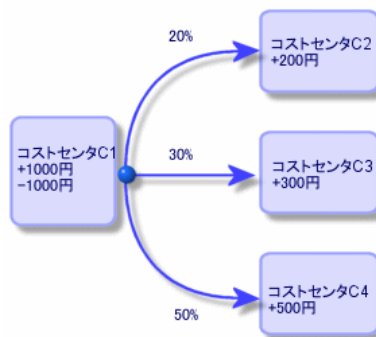
経費明細は、AssetCenter Serverによって分割されます。

AssetCenter Serverは、分割対象の経費明細を検索し、分割を行います。経費明細をモニタする頻度は、AssetCenter Serverオプションで定義します。

経費明細は、次のようにして分割されます。

- 分割前のコストセンタ内に分割された経費明細が作成されます。
- 分割のパーセンテージに従って、子コストセンタ内に経費明細が作成されず。

図 2.6. コストセンタ間の分割処理



経費明細の分割を自動化する

経費明細を正しく分割するには、次の手順に従います。

- 1 AssetCenter Serverを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 **【アクション / 起動】**メニューを選択します。
- 4 アクション **【コストセンタの経費を分割する】**を選択します。
- 5 **【OK】**をクリックします。
- 6 AssetCenterを起動します。
- 7 経費明細に関連するAssetCenterの要素にコストセンタを割り当てます。
- 8 AssetCenter Serverによって、経費明細が自動的に分割されます。

分割処理の詳細設定と計算

コストセンタの詳細画面の **【分割処理】** タブページに、コストセンタに関連する分割の説明があります。

分割後の各コストセンタに分割処理明細を指定します。

分割処理明細に、分割処理の開始日、終了日、分割のパーセンテージを指定します。

注意事項

- 分割の開始日は分割期間に入りますが、終了日は入りません。例えば、開始日が1999/1/1で終了日が1999/4/1の場合は、分割は1999年1月1日から1999年3月31日まで有効です。
- 指定日時点でのコストセンタの経費のパーセンテージの合計が100 ±0.1%になるように分割しなければなりません。
- 分割前のコストセンタを、分割後のコストセンタに関連付けられた分割に含めることはできません。

経費明細の計算

- 分割のパーセンテージを適用してから、経費の小数点以下第二位を四捨五入します。
- 丸め誤差は最初の経費明細で相殺されます。

経費明細の金額を変更する場合の注意

- 経費明細「L」が別の経費明細の分割によって発生した経費明細の場合は、経費明細「L」の金額を手動で変更しても、次の経費明細には影響しません。
 - 経費明細「L」の発生元の経費明細

- 経費明細「L」の分割によって発生した経費明細

 **警告:**

コストセンタが削除された場合などにAssetCenter Serverにより経費明細が自動的に再計算されると、手動で加えた変更は失われます。

- 経費明細が他の経費明細の分割処理によって発生した経費明細でない場合は、その金額を変更すると、その経費明細の分割によって発生した経費明細にも変更が加えられます。

コストセンタを削除する

【編集/オプション】のオプションウィンドウで【リンクレコード削除の許可】が【はい】になっている場合は、経費明細があるコストセンタを削除できます。以下の3つの方法で削除できます。

リンクしているすべてのレコードを削除する

コストセンタが削除されると、AssetCenterは次の明細を削除します。

- 削除されたコストセンタの経費明細
- 削除されたコストセンタに関連する分割処理で発生した経費明細

 **注意:**

削除されたコストセンタで分割処理が行われ、別の経費明細が発生した場合、AssetCenterは分割前の元の経費明細の非表示フィールド【分割処理のステータス】（SQL名：seSplitStatus）を「未分割」に変更します。

このようにステータスは未分割に戻っても、分割により発生した経費明細がまだリンクされている経費明細をAssetCenter Serverが検出すると、AssetCenter Serverはそれらのリンクしている経費明細をすべて削除します。それと同時にAssetCenter Serverは分割前の元の経費明細も削除します。

次に、AssetCenter Serverは未分割のステータスに戻った経費明細を分割し、新しいパラメータに基づいて再計算します。

リンクしているすべてのレコードを切り離す

この場合は次のようになります。

- 削除されたコストセンタの経費明細は、切り離したコストセンタとは関連がなくなります。
- 経費明細が、削除されたコストセンタの分割前の元の経費明細の場合は、その経費明細が再分割されます。

- 経費明細が、削除されたコストセンタに関連する分割処理により発生した経費明細の場合は、変更されません。

リンクしているレコードを別のレコードにリンクする

- この場合は、削除されたコストセンタに代わるコストセンタXを選択します。
- 削除されたコストセンタの経費明細をコストセンタXに関連付けます。
 - 経費明細が、削除されたコストセンタの分割前の元の経費明細の場合は、コストセンタXが新しいコストセンタと見なされ、その経費明細が再分割されます。
 - 削除されたコストセンタに関連する分割処理によって発生した経費明細は削除され、コストセンタXの経費明細が分割されます。

3 | 固定資産を関連付ける

本章では、AssetCenterデータベースに固定資産を関連付ける方法について説明します。

内容は次の通りです。

- 固定資産の関連付けについて
- 固定資産の詳細情報

固定資産のリストを表示するには、【ファイナンス/固定資産】メニューを選択します。

図 3.1. 固定資産 - 詳細画面

全般	減価償却	資産	貸方	履歴	書類
番号:	MAT951500035	分類:	乗用車	更新:	2002/03/20
資産名:	営業部乗用車	取得日:	2000/08/05	導入日:	2000/08/16
オプション:	関連付け済	場所:	札幌事務所/南側駐車場		
税抜き価格:	¥1,500,000	数量:	1		
単価:	¥1,700,000				
フィールド1:					
フィールド2:					
フィールド3:					
コメント:					

AssetCenterデータベースの資産と固定資産の関連付けについて

ある会社の経理部で、専用の会計ソフトを使って固定資産の詳細情報を管理しているとします。しかし、会計に紛失した資産や未使用の資産の情報を含んだ最新の固定資産のリストを反映させることは困難です。会計レコードに処分済の資産に相当する固定資産が含まれていることはよくあることです。

上記のような会計レコードのファイルを更新するには、物理的に資産を棚卸することが必要です。AssetCenterで資産を棚卸し、その情報を固定資産のリストと関連付けて照合すれば、その相違点を基に会計ファイルを更新することができます。

関連付けがしやすいように、AssetCenterには会計プログラムの固定資産情報を入力するためのテーブルがあります。会計プログラムから固定資産のデータをインポートすると、AssetCenterデータベース内の資産情報と関連付けることができます。AssetCenterには、会計プログラムから取得した固定資産データを棚卸資産に手動で関連付けるウィンドウがあります。

AssetCenterでは、次の3つの方法でデータベース内の資産を固定資産に関連付けます。

- 1つの資産を1つの固定資産に関連付ける
- 1つの資産を複数の固定資産に関連付ける（1つの資産で進行中の作業を管理する場合など）

- 1つの固定資産を複数の資産に関連付ける（複数の資産をまとめて管理する場合など）

AssetCenterデータベース内の資産と会計プログラムから取得した固定資産情報とを関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 固定資産の会計ソフトから有効な情報を抽出します（テキストファイルに出力）。
- 2 テキストファイルをAssetCenterの固定資産テーブルにインポートします。
- 3 資産と固定資産を関連付けます。
- 4 「関連付けなし」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、資産に関連付けられなかった固定資産です。経理部では、必要に応じてこれらの固定資産をリストから削除できます。
- 5 「一部関連付け」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、一部のみ資産に関連付けられた固定資産です。経理部はこれらの固定資産を分解し、関連付けられていない固定資産をリストから削除できます。
- 6 「処分」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、処分された資産にのみ関連付けられる固定資産です。経理部では、これらの固定資産をリストから削除できます。

固定資産の詳細情報

固定資産の詳細画面の情報の多くは、固定資産を管理する外部のソフトウェアアプリケーションからインポートして入力します。

固定資産の詳細画面の上部、および【全般】と【減価償却】タブページのフィールドは、他のAssetCenterテーブルにリンクしていません。

AssetCenterデータベースに固定資産のデータをインポートしたら、必要に応じて次のように詳細情報を入力します。

注意:

データのインポートについて詳しくは、マニュアル『管理』の「データのインポート」の章を参照してください。

- 【全般】タブページのフィールドに入力します。必要に応じて、固定資産の会計コード、固定資産の取得日、【導入日】（SQL名：InstallDate）、レコードの更新日、固定資産の設置場所、数量、単価を入力します。
- 【減価償却】タブページのフィールドに入力します。必要に応じて、固定資産の減価償却のタイプ（会計、技術、年度など）、計算方法（定額、定率、例外など）、減価償却期間を指定します。

- 固定資産の詳細画面の【資産】タブページで、固定資産と資産を関連付けます。✚、✖と✎のボタンをクリックすれば、固定資産に関連する資産の追加、削除、表示、変更を行うことができます。
- 固定資産の詳細画面の上部にある【オプション】（SQL名：seOption）フィールドに入力します。このフィールドには、次の4つの値のいずれかを入力することができます。
 - **関連付けなし**：固定資産に資産が関連付けられていないことを示します。
 - **一部関連付け**：固定資産に最低1件の資産が部分的に関連付けられていることを示します。
 - **関連付け済み**：固定資産と資産が完全に関連付けられていることを示します。
 - **処分**：この固定資産は、固定資産のリストに表示されるべきではないことを示します。これは、固定資産に対応する資産がもう使用されない場合に当てはまります。

 **注意:**

【取得日】（SQL名：AcquDate）フィールドと【導入日】（SQL名：InstallDate）フィールド（固定資産の詳細画面の【全般】タブページ）に注意してください。これらの日付は外部のデータベースからインポートされるため、そのデータ型と保存形式が不明な場合があります。そのため、AssetCenterデータベースにはテキスト形式で保存されます。

4 | 税金

本章では、AssetCenterで税金を処理する場合の様々な計算方法について説明します。

税金には次の種類があります。

- 固定
- 計算式で計算する税金

税金管理が必要な分野

AssetCenterでは、次の分野で税金機能が使われています。

- 契約賃貸料。契約の詳細画面の【**賃貸料**】タブページの賃貸料サブタブページで、【**税金**】（SQL名：TaxFormula）、【**税区分**】（SQL名：TaxJuris）、【**税率**】（SQL名：pTaxRate）、【**税額**】（SQL名：mTaxValue）フィールドに、契約全体の賃貸料の支払額にかかる税金を指定します。

 **注意:**

【**賃貸料**】タブページは、契約の詳細画面の【**全般**】タブページで【**タイプ**】（SQL名:seType）フィールドが【**マスターリース**】以外に設定されており、【**支払属性**】（SQL名:sePayType）フィールドが【**賃貸料**】または【**両方**】（賃貸料とローンの両方）に設定されている場合のみ表示されます。

- 資産の賃貸料。資産の詳細画面の【支払】タブページの【賃貸料】サブタブページで、【計算式】（SQL名：TaxFormula）、【税区分】（SQL名：TaxJuris）、【税率】（SQL名：pTaxRate）、【税額】（SQL名：mTaxValue）フィールドに、各資産の賃貸料支払額にかかる税金を指定します。

 注意:

【賃貸料】サブタブページは、【取得】タブページの【調達】サブタブページの【取得方法】（SQL名：seAcquMethod）フィールドが【レンタル】または【リース】に設定されている場合に表示されます。また、賃貸料が資産単位で比例配分された契約（契約の詳細画面の【賃貸料】サブタブページ / 賃貸料サブタブページ / 【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで指定）に資産が追加された場合に、自動的に作成されます。

- 税区分
- 場所。【税区分】（SQL名：TaxJuris）フィールドでは、税率の詳細情報が指定されている税区分テーブルにリンクできます。
- 税金のタイプ
- 経費明細。経費明細の【貸方税額】フィールドと【借方税額】フィールドには、貸方と借方の総額にかかる税金が表示されます。特に、資産ごとまたは契約全体の賃貸料の支払に関連する経費明細には、その賃貸料にかかる税金が表示されます。これらの経費明細は、資産および契約の詳細画面の【コスト】タブページに表示されます。
- AssetCenter Server モニタプログラム。このプログラムは、契約全体または資産ごとの賃貸料に対応する経費明細を自動的に作成します。作成される経費明細は、定期的な賃貸料とそれにかかる税金情報で構成されます。
- 調達サイクル（特に依頼、発注、請求）。調達サイクルで発生する税金は、【明細】タブページに表示されます。税金の詳細情報は、依頼明細、発注明細、請求明細のいずれかの詳細画面で指定できます。

概念と実用例


本節では、税金を管理する上で使う概念について説明します。

税区分

税区分のテーブルにアクセスするには、【ファイナンス / 税区分と税率】メニューを選択します。

税区分を使うと、場所、税率のタイプ、および税率を組み合わせることができます。税区分の詳細画面では、次の2つの操作を実行できます。いずれの操作も、税区分の【税率】タブページで行います。

- 特定の税区分の税率の表示
- 特定の税区分の税率の編集

【この税区分の税率の編集】オプションを選択し、ボタンをクリックすると、税率を追加できます。

 **注意:**

税区分は階層構造になっています。

税率のタイプ

税率のタイプでは、「地方税」などの適用する税金の種類を定義します。

【税率のタイプ】のテーブルには、次の方法でアクセスできます。

- 【管理/画面一覧】メニューを選択する。
- 税区分の税率のリストに付いている【税率のタイプ】(SQL名: TaxType)を使う。


 **注意:**

税率のタイプの【変数名】(SQL名: SQLName)を税金の計算式に使うことができます。変数名には英数字だけを使い、スペースは入れないようにします。先頭の文字は英字でなければなりません。

税率

指定した税区分で適用可能な税率のタイプごとに、指定した日付以降の税率一覧を定義します。

指定した場所の税率のタイプに使う税率リストを表示するには、次の手順に従います。

- 1 【ポートフォリオ/場所】メニューを選択し、場所のテーブルを表示します。
- 2  ボタンをクリックし、場所に対応する税区分の詳細画面を表示します。
- 3 税区分の詳細画面の【税率】タブページで、【この区分で使用可能な税率の表示】オプションを選択します。
- 4 税区分の税率のタイプに適用可能なすべての税率の一覧が表示されます。

税金の計算式

税金の計算式のテーブルにアクセスするには、[ファイナンス/計算式]メニューを選択します。

税金の計算式では、以下のようなBASIC計算式を使って税額を計算します。

```
RetVal = <税率> * <課税される経費>
```

税率は固定額、またはBASIC関数AmTaxRate()で計算される値です。この関数は、税率のタイプ、税区分、特定の日付に応じて税率の値を返します。

AmTaxRate()関数のシンタックスについては、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

簡単な計算式の例

```
RetVal = 21.6 * [mPrice]
```

実用例

ここでは依頼明細の税を計算します。依頼明細は、税区分と税金の計算式に関連付けられます。税金の計算式はAmTaxRate()関数を使用します。

1 税区分を作成します。

- 1 税区分のテーブルを表示します（[ファイナンス/税区分と税率]メニュー）。
- 2 新規の税区分を作成します（[新規作成]ボタン）。
- 3 [名前]フィールド（SQL名：Name）に値を入力します：実用例 - 税区分
- 4 レコードを作成します（[作成]ボタン）。
- 5 [税率]タブを選択します。
- 6 [この区分の税率の編集]オプションを選択します。
- 7 [+]をクリックします。
- 8 以下のフィールドに値を入力します。
 - [税率のタイプ]（SQL名：TaxType）：実用例 - タイプ（レコードの仮作成が可能です）
 - [課税日]（SQL名：dApplication）：01/01/2002
 - [税率]（SQL名：pRateVal）：10%
- 9 連続追加用のボタンをクリックします。
- 10 以下のフィールドに値を入力します。
 - [税率のタイプ]（SQL名：TaxType）：実用例 - タイプ
 - [課税日]（SQL名：dApplication）：01/01/2003

- **【税率】** (SQL名: pRateVal) : 20%
- 11 **【追加】** をクリックします。
 - 12 **【変更】** をクリックします。
 - 13 **【閉じる】** をクリックします。
- 2 税金の計算式を作成します。
 - 1 税金の計算式のテーブルを表示します (**【ファイナンス/計算式】** メニュー)。
 - 2 新規の税金の計算式を作成します (**【新規作成】** ボタン)。
 - 3 以下のフィールドに値を入力します。
 - **【名前】** (SQL名: pRateVal) : **実用例 - 計算式**
 - **【テーブル】** (SQL名: TaxType) : **依頼明細 (amReqLine)** (レコードの仮作成が可能です)
 - **【計算式】** (SQL名: memFormula) :

$$\text{RetVal} = \text{amTaxRate}(\text{"実用例 - タイプ"}, [\text{ITaxJurisId}], [\text{dtService}], [\text{mUnitCost}]) * [\text{mUnitCost}]$$
 - 4 **【作成】** をクリックします。
 - 5 **【閉じる】** をクリックします。
 - 3 依頼明細を作成します。
 - 1 依頼のテーブルを表示します (**【調達/購入依頼】** メニュー)。
 - 2 新規の依頼を作成します (**【新規作成】** ボタン)。
 - 3 **【カスタム依頼を新規作成する】** オプションを選択します。
 - 4 **【OK】** をクリックします。
 - 5 **【目的】** フィールド (SQL名: ReqPurpose) に値を入力します: **実用例 - 依頼**
 - 6 **【作成】** をクリックします。
 - 7 **【明細】** タブを選択します。
 - 8 **【+】** をクリックします。
 - 9 **【購入】** タブを選択します。
 - 10 以下のフィールドに値を入力します。
 - **【日付】** (SQL名: dtService) : 1/7/2002
 - **【単価】** (SQL名: mUnitCost) : 100
 - **【税金の計算】** (SQL名: bUsesTaxForm) : オプションを選択します。
 - **【TaxFormula】** : **実用例 - 計算式**
 - **【税区分】** (SQL名: TaxJuris) : **実用例 - 税区分**

- 11 **【税率】**（SQL名：pTaxRate）と**【税額】**（SQL名：mTaxValue）フィールドを確認します。これらのフィールドは、上記で作成／記入したフィールド、リンクとレコードに応じて自動的に計算されます。

税金の計算式を適用する

- 税金の計算式が場所、つまり税区分によって変わる場合は、次の作業を行います。
 - 【管理／画面一覧】**メニューから、または税区分のテーブルから**【税率のタイプ】**ウィンドウを表示して、税率のタイプを作成します
 - 場所ごとに税区分を指定します。
 - 各税区分の税率のタイプに税率を定義します（各税区分の詳細画面の**【税率】**タブ）。
 - 税金の計算方法を入力します。
 - 資産ごとまたは契約全体の賃貸料にかかる税金を支払う場合は、資産または契約の詳細画面の**【支払】**タブページで税金の計算方法を入力します。
 - 税金が依頼明細または発注明細に関連する場合は、その明細の詳細画面の**【購入】**タブページで税金の計算方法を入力します。
 - 税金が請求明細に関連する場合は、請求明細の詳細画面の**【価格】**タブページで税金の計算方法を入力します。
- 税金の計算方法は次のいずれかです。
- 固定（値を直接入力する）
 - 計算式（計算式を使うことを指定する）

重要項目:

資産または契約の定期的な賃貸料の支払にかかる税金は、AssetCenter Serverによって自動的に計算されます。この種の税金は、賃貸料の支払の経費明細に表示されます。賃貸料の支払の経費明細は、契約全体（資産に配賦も分割もされない賃貸料の支払）または契約上の資産単位（資産に比例配分される賃貸料の支払）で作成されます。

注意:

税金の自動計算は、リース契約の一時金には適用されません。

場所に応じて税金を指定する

本節では、場所に関連する税金を指定する方法について説明します

概要


場所によって支払う税金が変わる場合は、まず次の作業が必要です。

- 1 各場所に対応する税区分を定義する。
- 2 税区分ごとに税率のタイプと課税日現在の税率を定義する。


税区分のテーブルは階層構造になっており、指定した税区分について定義した税率のタイプと税率が下位の税区分のすべてに適用されるため、手動でコピーする必要はありません。

場所の詳細画面の【全般】タブページで、【税区分】(SQL名: TaxJuris) フィールドを使って場所に税区分(税率)を関連付けることができます。


税区分の税率のタイプを管理する

場所の詳細画面の【税区分】フィールド右の  ボタン、または【ファイナンス / 税区分】メニューを使って税区分のテーブルを表示します。【税率】タブページ上部の【この区分の税率の編集】オプションを選択します。

税区分の税率と税率のタイプを指定する

- 1 リストの隣の  ボタンをクリックします。詳細情報を指定できるウィンドウが表示されます。
- 2 次のいずれかの方法で、【税率のタイプ】(SQL名: TaxType) フィールドに入力します。
 - 税率のタイプのテーブルで既存の【税率のタイプ】を選択します。
 - または【税率のタイプ】を作成します(【仮作成】または【詳細設定】のどちらかを選択)。
- 3 【課税日】(SQL名: dApplication) フィールドと【税率】(SQL名: pRateVal) フィールドに入力します。各フィールドには、税率の値とその税率の適用開始日を指定します。
- 4 【追加】をクリックします。

税区分の税率と税率のタイプを削除する

- 1 リスト内で削除するアイテムを選択します。
- 2 リストの隣の  ボタンをクリックします。

税区分の税金を表示する

税率のタイプと税金の値を定義すると、その税区分で適用可能な税金を日付を指定して表示することができます。表示するには、次の手順に従います。

- 1 **【ファイナンス/税区分と税率】**メニューを選択して、税区分のテーブルを表示します。
- 2 税金を表示する税区分を選択します。
- 3 税区分の詳細画面の**【税率】**タブページで、**【この区分で使用可能な税率の表示】**オプション（タブページ上部）を選択します。
- 4 場所フィールドに対して有効な税金を調べる日付を**【課税日】**（SQL名：dApplication）フィールドに入力します。
- 5 指定した日付現在で有効な税金が表示されます。これらは税区分固有の税金であり、親場所から継承された税金です。

賃貸料の税金の計算方法を指定する

本節では、賃貸料の支払にかかる税金の計算方法を指定する方法について説明します。

税金の計算方法は、**【計算式】**（SQL名：TaxFormula）、**【税区分】**（SQL名：TaxJuris）、**【税額】**（SQL名：mTaxValue）、**【税率】**（SQL名：pTaxRate）の各フィールドで定義します。これらのフィールドは、次のタブページで表示されます。

契約全体の賃貸料（**【賃貸料】**タブページ / **【賃貸料】**サブタブページ）

資産単位の賃貸料（**【取得】**タブページ / **【賃貸料】**サブタブページ）

【税金の計算】（SQL名：bUsesTaxForm）オプションに応じて、次のように税金の計算方法を指定できます。

- このオプションのチェックボックスをオフにすると、税金は固定されます。
- このオプションのチェックボックスをオンにすると、税金は計算式を使って計算されます。

固定税金

資産単位または契約全体の賃貸料にかかる税金を固定するには、次の手順に従います。

- 1 **【税金の計算】**（SQL名：bUsesTaxForm）チェックボックスをオフにし、税金を固定することを指定します。
- 2 **【税額】**（SQL名：mTaxValue）フィールドに税額を、または**【税率】**（SQL名：pTaxRate）フィールドに税率を入力します。

例えば以下の様に固定の税金を入力します。

税額: ¥10,000




【賃貸料】サブタブページで税金を固定すると、毎回支払う賃貸料にかかる税金がすべて固定されます。

後で賃貸料が資産に配賦された場合は、資産単位の賃貸料にも同じ税金規則が適用されます。


税金の計算式

AssetCenterでは、計算式を使って税金を計算できます。

税金の計算式の詳細画面にアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 【税金の計算】（SQL名：bUsesTaxForm）チェックボックスをオンにし、計算式を使って税金を計算することを指定します。
- 2 【計算式】フィールドの右の  アイコンをクリックするか、または  をクリックして事前に定義された計算式を選択します。
- 3 税金の計算式のテーブル内の既存の計算式を使う場合は、【選択】をクリックしてから  をクリックします。新しい計算式を作成する場合は【新規作成】をクリックします。

税金の計算式には、次の情報が含まれています。

- 【名前】（SQL名：Name）。税金の計算式のテーブル内で使われる固有の名前です。
- 【カテゴリ】（SQL名：Category）。不特定のリストデータから選択します。カテゴリは計算式の内容の説明です。このフィールドは、情報の参照用で、データの自動処理に使われることはありません。リストデータが「オープン」で、ユーザが適切な権限を持っている場合は、このフィールドに新しい値を入力できます。
- 【テーブル】（SQL名：TableName）。リンクするテーブルです。
- 【計算式】（SQL名：memFormula）。計算式のシンタックスを指定します。 をクリックすると、計算式のBASICスクリプトを効率的に入力できるスクリプトビルダが表示されます。

税金の計算式にリンクしているテーブルのフィールドを、計算式に組み込むことができます。

【賃貸料】サブタブページのテーブルにリンクされている税金の計算式を選択できるかどうかは、次のように、賃貸料が資産単位で分割されているかどうか、さらにその分割の方法によって決まります。

- 次の計算式は、資産の賃貸料のテーブルにリンクできます。
 - 契約に関連しない資産の賃貸料にかかる税金の計算式

- 契約上の資産のすべてまたは一部に比例配分され、分割または配賦された契約賃貸料にかかる税金の計算式
- 次の計算式は、契約の賃貸料のテーブルにリンクできます。
 - 資産に配賦されていない契約の賃貸料にかかる税金の計算式

税金の分割方法


- 税金の計算式に資産の賃貸料のテーブルの変数を使う場合は、税金は賃貸料の経費明細が作成されるときに資産ごとに直接計算されます。
- 税金の計算式に資産の賃貸料のテーブルの変数を使わない場合は、税金は契約単位で計算されます。
 - 賃貸料が資産に配賦されていない場合は、税金は契約の経費明細に統合されます
 - 賃貸料が資産に配賦されている場合は、税金は賃貸料の計算と同じ規則に従って各資産の経費明細に分割されます。

税金の計算式のシンタックス

税金の計算式には複雑なシンタックスを指定でき、次の情報を組み込むことができます。

- 計算式がリンクするテーブルのフィールド
- 課税対象となる賃貸料の支払の税区分に適用可能な税率のタイプ。これらは変数名で指定します。

注意:

AssetCenterのスク립トビルダは、ユーザが税金の計算式を記述する場合に役立ちます。スク립トビルダを表示するには、計算式の入力フィールドの右側にある  をクリックします。

計算式を使って計算した税金を賃貸料に関連付ける

次に、計算式を使って計算した税金を賃貸料に関連付ける手順を示します。


手順1：場所のテーブルで指定

契約上の資産のすべて（または一部）に分割された資産賃貸料または契約全体の賃貸料に対して税金を支払う必要があり、その税金が資産の設置場所によって変わる場合は、次の手順を実行します。

- 1 **【ポートフォリオ/場所】**メニューを選択して、場所のテーブルを表示します。
- 2 資産の設置場所を選択します。

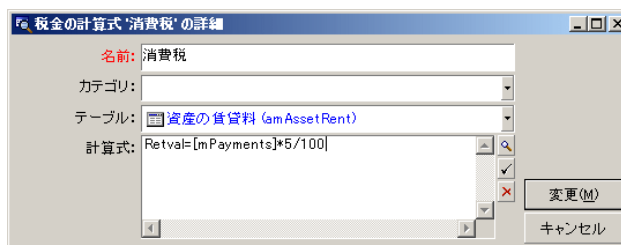
- 3 設置場所の税区分を選択します。
- 4 この税区分に適用可能な税率のタイプ、および対応する税率と適用日を指定します。

手順2：契約賃貸料または資産賃貸料の [計算式] (SQL名：TaxFormula) フィールドで指定

- 1 **【税金の計算】** (SQL名：bUsesTaxForm) チェックボックスをオンにして、賃貸料にかかる税金を計算式で計算することを指定します。
- 2 税金の計算式が既に存在する場合は、**【計算式】** フィールドの右の  ボタンをクリックして計算式を選択します。
- 3 計算式がない場合は、次の手順で **【計算式】** フィールドから直接式を作成します。
 - 1 **【計算式】** フィールドに計算式の名前を入力し、別のフィールドにカーソルを移動します
 - 2 表示されるダイアログボックスで **【詳細設定】** を選択すると、税金の計算式の詳細画面が表示されます。
 - 3 必要に応じて、計算式の **【カテゴリ】** を入力します
 - 4 計算式のシンタックスを入力します。
- 4 **【変更】** をクリックし、変更を確定します。

税区分に無関係な計算式の例

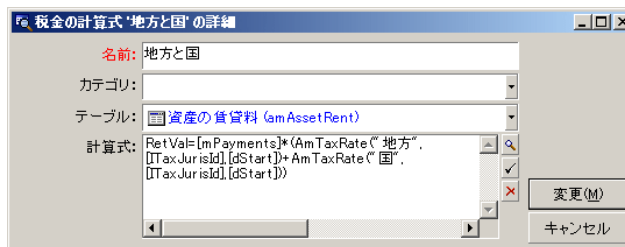
「税率のタイプ」を使わない計算式の例を次に示します。



この例では、税区分に無関係な税金の計算式が **【計算式】** (SQL名：memFormula) フィールドに直接入力されています。この式によると、税金は賃貸料の5%です。

税区分を指定する計算式の例

契約賃貸料をすべての資産に配分した場合に、各賃貸料にかかる税金を税区分を指定して計算する計算式の例を次に示します。



この例では、税金は契約賃貸料のある一定の割合と同じになります。この割合は、「地方」と「国」税率のタイプの値の合計です。

上の計算式の場合は、指定した期間の契約賃貸料に関連する税金を計算する過程が含まれています。

- 1 AssetCenter Serverは、税率のタイプ（計算式に組み込まれる変数）が税区分に適用可能かどうかを調べます。
- 2 計算式に使用されている税率のタイプが既存の税区分にない場合は、対応する税率を0として計算します。
- 3 税率のタイプが既存の税区分にある場合は、AssetCenter Serverは賃貸料の適用日現在の税率を調べ、これを計算式に使います。適用日現在の税率が定義されていない場合は、0とします。
- 4 最後に、AssetCenter Serverは税金の総額を計算し、賃貸料の経費明細に統合します。

賃貸期間中の税率の変化を管理する

税金の計算に使う税率のタイプの税率は、賃貸期間中（各計算期間内）に変わる可能性があります。

AssetCenter Serverは、賃貸料の支払日に有効な税率を適用します。多くの場合はこれで十分です。

税率の変化を計算に反映させたい場合は、次のように複数の連続的な賃貸料を定義することをお奨めします。

- 1 **【賃貸料】**サブタブページを表示します（契約の詳細画面の**【賃貸料】**タブページまたは資産の詳細画面の**【取得】**タブページで選択）。
- 2 賃貸料の支払の期限を、賃貸の期間内で税率が変わる直前の日付に変更します。

- 3 **【賃貸料】**サブタブページを複製し、次の賃貸料を新しく作成します。
 - 1 移行期間の賃貸料。この賃貸料に対しては、税金の計算式を使わずに直接値を入力して税金を固定します。
 - 2 税率変更後の期間の賃貸料。

調達サイクルで税金を使う

本節では、資産の調達サイクルで税金を使う方法について説明します。

はじめに

資産の調達に関連する税額は、調達の各過程（購入依頼、見積、発注、請求書）で、依頼、見積、発注、または請求書の詳細画面にある**【明細】**タブページの下側に表示されます。

 **注意:**

【明細】タブページに表示される総額は、情報の提供のみを目的としており、ユーザが直接編集することはできません。ただし、依頼、発注、請求書のいずれかの明細の詳細画面でその明細に対応する税金を定義できます。

自動処理

AssetCenterでは、調達サイクルの各過程に税額が継承されます。例えば、購入依頼で税金を定義すれば、発注と請求書を作成するときに、自動的に同じ金額が入力されます。

調達サイクルで指定した税金を、前の過程に反映させることはできません。例えば、発注を作成するときに税金を定義しても、元の購入依頼の税金は変更されません。

 **注意:**

調達サイクルの自動処理で各過程の値が食い違うことがないようにするためにも、税金は調達サイクルのできるだけ早い過程（購入依頼）で定期的に定義することをお奨めします。

税金を入力する

税金を入力する

調達サイクルの各過程で税金を入力するには、次のタブページを使います。

- 依頼明細の詳細画面の【購入】タブページ
- 発注明細の詳細画面の【購入】タブページ
- 請求明細の詳細画面の【価格】タブページ

各詳細画面の右下の領域で税金を指定します。税金を固定する場合は、【税金の計算】(SQL名: bUsesTaxForm) チェックボックスをオフにし、税額または税率を直接入力します。計算式を使って税金を計算する場合は、【税金の計算】(SQL名: bUsesTaxForm) チェックボックスをオンにして税金の計算式を選択します。

税金の自動処理

依頼、発注、請求のいずれかの明細の詳細画面の【購入】タブページでは、次のフィールドが互いにリンクしており、指定した値に応じてデータが自動的に処理されます。

表 4.1. 税金の自動処理

変更するフィールド	自動的に変更されるフィールド	自動処理に使われるフィールド
【単価】(SQL名: mUnitCost)	【税額】(SQL名: mTaxValue)	【税金】(SQL名: TaxFormula)
【税金】(SQL名: TaxFormula)	【税額】(SQL名: mTaxValue)	【単価】(SQL名: mUnitCost)
【税率】(SQL名: pTaxRate)	【税額】(SQL名: mTaxValue)	【単価】(SQL名: mUnitCost)

【総額】(SQL名: mCost) フィールドの値は、次の計算式によって計算されません。

$$\text{合計} = (\text{単価} + \text{税額}) * (1 - \text{割引率})$$

5 | TCO (総所有コスト)

所有資産の総所有コスト (Total Cost of Ownership = TCO) は、所有するハードウェアおよびソフトウェアから発生する直接および間接的なすべての経費を特定するときに必要になります。

これらの費用には、取得、研修、テクニカルサポート、およびアップグレードにかかった経費も含まれます。所有資産の総所有コストを割り出すことで、以上に増減した経費を特定することができます。

所有資産の総所有コストの管理は、企業の利損益に大きな影響を与えます。専門家の分析結果では、所有資産の総所有コストを徹底的に管理することで、2年間で30～40%の減額が可能なこと、また逆にこの戦略を誤ると50%増額する危険性もあることが報告されています。

TCO (総所有コスト) に含まれる原価

所有資産の総所有コストには、次の複数のコストカテゴリーの総額です。

- ハードウェアおよびソフトウェアの原価 (取得原価)
- 管理費 (外部費用および内部費用)
- エンドユーザ原価

ハードウェアおよびソフトウェアの原価

これらの原価には、デスクトップおよびラップトップコンピュータ、サーバ、周辺機器、およびネットワークシステムなどの経費が含まれます。

また、取得およびリースの原価も含まれます。

一般的に、ハードウェアおよびソフトウェアの原価は、資産、リース契約、および購入金額によって計算されます。残存価額もその中に含まれます。

このコストカテゴリは、さらに次の従属カテゴリに分類されます。

- **取得原価**：ハードウェアの購入またはアップグレードにかかった年間経費。取得原価は、ある特定の期間で減価償却されます。これは資産のカテゴリによっても異なりますが、デスクトップコンピュータの場合は一般的に定額法により3年間で減価償却されます。
- **ソフトウェアの原価**：ソフトウェアの購入またはアップグレードにかかった年間経費。一般的にこの原価は減価償却されません。スイートパッケージまたは統合パッケージの一部のソフトウェアを使用する「Select」タイプの使用許諾契約の場合は、契約期間で減価償却します。例えば、3年間で60000円の「Select」タイプ契約のソフトウェアの場合は、年間20000円減価償却されることとなります。
- **賃貸費**：ハードウェアおよびソフトウェアの年間リース料金

管理費

管理費には、ハードウェアおよびソフトウェアのインストール、管理、サポート、および保守にかかる経費が含まれます。この経費には、外部の業者に支払った修理費などの外部費用、および社内の技術者がコンピュータにインストールしたときにかかる内部費用の2種類あります。外部費用には必ず支払先からの請求書が伴うため、簡単に評価できます。内部費用の場合は、各従業員の職種に応じた時給で見積ることができます。例えば、1人のエンジニアに対し、内部費用として時給2000円が支払われると見なすことができます。このカテゴリの原価には、すべての社外および社内のすべての管理費が含まれます。

エンドユーザ原価

この原価は、資産の使用に関連する間接的な費用です。このカテゴリは、次のように大別されます。

- 通常のテクニカルサポート担当者を使わずに、エンドユーザ自信またはその他のユーザがサポート業務を実行した場合に発生する経費。
- **自主トレーニング費**：マニュアルを読んだり、ハードウェアやソフトウェアをテストするなど、エンドユーザが自分で学習した時間にかかる経費。

 **注意:**

慣習的に、これらの経費には書類が伴わないため、調査が必要です。例えば、これらの経費を、書類の伴う経費（取得、リース、またはメンテナンス費など）の一部として計上することは難しいことです。ハードウェア、ソフトウェア、および管理費の約27%をユーザ原価として計上する例もあります。

AssetCenterでTCO（総所有コスト）を管理する

取得原価と外部管理費

AssetCenterの経費明細を使って、ハードウェアとソフトウェアの原価、および外部の業者による管理費の履歴を保存することができます。このカテゴリの原価は、それぞれ異なる分野の機能で処理されます。

- 取得原価は、資産を受領したとき、または資産を作成したときに発生します。
- 減価償却費は、資産の詳細画面の【固定資産】タブページに表示されます。

 **注意:**

減価償却費は、所有資産の総所有コストを計算する前に、デフォルトで3年定額法を使って計算されます。

- ソフトウェア原価は、ソフトウェア資産を取得したときにライセンス管理機能によって見積られます。
- 賃貸費は、契約管理機能によって作成されます。

内部管理費

内部管理費は、経費明細が関連付けられている作業指示の詳細画面に表示されます。これらの作業指示に関連して、社内の技術者が作業した時間が経費として発生します。

また、AssetCenterは、標準のAssetCenterデータキットに付属している特殊フィールド（SQL名：cf_AverageYearlyTco）を使って、所有資産1件の総所有コストの年間の平均値を計算します。

 **注意:**

所有資産の総所有コストの年間平均値を算出する計算式は複雑です。AssetCenterのパフォーマンスを損なわないようにするためにも、この特殊フィールドを必要な資産だけのリストを表示した後に表示するか、まとめて作成したレポートで表示することをお奨めします。

AssetCenterで原価を計算する

AssetCenterは、単純な内部管理費を計算します。次の分野の管理費を計算します。

- 製品（【amProduct】テーブル）
- 部署と従業員（【amEmplDept】テーブル）
- 作業指示（【amWorkOrder】テーブル）
- 経費明細（【amExpenseLine】テーブル）

専門分野データには、TCO専用の任意管理項目と特殊フィールドが付属しています。

- fv_WorkUnit：部署と従業員のテーブルに使用できる任意管理項目。各従業員に1つの業務単価を割り当てることができます。
- fv_UnitDuration：製品のテーブルに使用できる任意管理項目。製品のカテゴリが業務単価のときに必須フィールドになります。従業員の労務費の詳細情報を入力するときに使います。
- fv_OverheadFactor：製品のテーブルに使用できる任意管理項目。内部処理にかかった費用を計算するときに使います。
- fv_seTcoPurpose：経費明細のテーブルに使用できる任意管理項目。この任意管理項目の値は自動的に更新されます。この任意管理項目を使うと、内部ヘルプデスクチケットによって発生した経費明細か（フィールド値は51）、または内部作業指示によって発生した経費明細か（フィールド値は52）を区別できます。この任意管理項目を使用できるのは、経費明細を発生した処理の目的（SQL名：sePurpose）フィールドの値が「6」（ユーザ定義の値）の場合のみです。
- cf_AverageYearlyTCO：製品および資産のテーブルに使用できる特殊フィールド。このフィールドには、所有資産1件の年間平均総所有コストが入力されます。

 **注意:**

これらの任意管理項目および特殊フィールドのスク립トを変更しないでください。変更すると、AssetCenterの所有資産の総所有コスト機能が正常に動作しなくなる場合があります。

TCOの評価

業務単価の定義

業務単価を使って、従業員カテゴリの労務費を定義します。次の式のように、1人の従業員が1件の業務にかけた時間を業務単価に掛けます。このように、業務単価を設定すると、簡単に内部費用を見積ることができます。

$1つの業務にかかる平均内部費用 = 業務単価の原価 * 作業に費やした時間$

業務単価の原価は、従業員のカテゴリによって異なります。例えば、テクニカルサポートエンジニアの作業時間は、ヘルプデスク技術者に比べ、次のような理由で長くなります。

- 給料
- 福利厚生
- 配賦不可能な作業
- 研修
- 欠勤
- その他

この点を考慮して、所有資産の総所有コスト機能では、業務単価原価（通常は1件の担当業務の給料に相当）から直接計算するだけでなく、乗数を使って総所有コストを計算することができます。その場合、前述の式は次のようになります。

$1つの業務にかかる平均内部費用 = 業務単価の原価 * 作業に費やした時間 * 乗数$

算出した業務の原価は、関連する資産の総所有コストに加える必要があります。

作業指示を使った内部管理費の詳細情報

内部管理費の詳細情報は、**内部メンテナンス**タイプの作業指示を使って入力することもできます。必ず技術者（**[技術者]**フィールド、SQL名：Technician）の業務単価を定義しておいてください。定義しないと経費明細が作成されません。作業指示に関連する作業および発生した経費は、すべて作業指示の詳細画面の**[コスト]**タブページに表示されます。

注意:

作業指示から発生した内部管理費の経費明細をすべて見る場合は、
【fv_seTcoPurpose】任意管理項目をフィルタとして使います。この任意管理項目を使うと、値が52（作業指示から発生したことを示す）の経費明細のみが検索されます。

図 5.1. 作業指示に関連して発生した内部管理費 - 詳細情報

作業指示No:	INTER990003	優先度:	緊急									
報告日:	2001/08/19 9:08:00	ステータス:	報告済									
解決予定期限:	2001/08/19 13:08:00		<input type="checkbox"/> 資産待ち									
<table border="1"> <tr> <td>全般</td> <td>トラッキング</td> <td>取得</td> <td>消耗品</td> <td>コスト</td> <td>依頼</td> <td>ケーブルデバイス</td> <td>ケーブル</td> <td>トレース</td> </tr> </table>				全般	トラッキング	取得	消耗品	コスト	依頼	ケーブルデバイス	ケーブル	トレース
全般	トラッキング	取得	消耗品	コスト	依頼	ケーブルデバイス	ケーブル	トレース				
日付	タイトル	借方	貸方									
2002/03/20	作業指示の社内経費	¥10,000	¥0									
				1 / 1								
				総費用: ¥10,000								
				追加業務との合計: ¥10,000								

注意:

1件の作業指示全体につき1つの経費明細が作成されます。

資産のTCO

資産の年間のTCOは、【cf_AverageYearlyTco】特殊フィールドによって見積られます。

計算式

資産の総所有コストを見積る計算式は、資産の割当状況（**【使用中】**、**【在庫中】**、**【除却済資産】**）によって異なります。次の2つの場合が考えられます。

- 資産が**【使用中】**または**【在庫中】**の場合は、計算式は次のようになります（期間は年まで指定します）。

$\text{資産の年間平均総所有コスト価} = \text{資産の取得に関連する経費明細} * \text{資産の予測寿命} + \text{資産のその他の経費明細} * (\text{現在の日付} - \text{導入日})$

資産の予測寿命は、次のようにして求めます

$\text{除却予定日} - \text{導入日}$

 **注意:**

【除却予定】フィールドに値を入力しておく必要があります。

- 資産が**【除却済資産】**の場合は、計算式は次のようになります。

$\text{資産の年間平均総所有コスト} = \text{資産の除却前に発生した前経費}$
--

資産の実質的な有効期間（除却前の期間）は、次のようにして求めます。

$\text{除却日} - \text{導入日}$

資産の年間平均総所有コストを表示する

計算をなるべく簡単にするためにも、フィルタを使って計算の対象になる資産だけを表示してから、**【リストの設定】**コマンドで、デモ用データベースの**【cf_AverageYearlyTco】**特殊フィールドを表示することをお奨めします。

6 | 経費付替え

概要

一般的に企業では、サービスや資産に伴う出費を、サービスや資産を依頼した部署の予算に再び配賦することを「経費付替え」と呼びます。AssetCenterでは、この企業内部の経費付替えの機能が提供されており、社内の経費を新しいコストセンタに配賦します。コストセンタは、経費明細を発生する特定の業務や計画などごとに組織されます。経費付替え機能では、あるコストセンタから発生する経費の全体または一部を、別のコストセンタに再請求することができます。この経費付替えシステムを使用すると、同一企業内で「顧客」と「納入業者」の関係を保つ部署間で、お互いに経費を請求し合うことができるようになります。

特徴

ある会社が、社内の諸部署の経費をエンドユーザに配賦して請求するとします。この場合この会社は、例えば情報システム部の経費を計上し、エンドユーザにその経費を再請求するシステムを確立します。このように、Aコストセンタが経費の全体または一部をBコストセンタに再請求する際、Bセンタは、経費総額を「Aからの経費付替え」として受け取るようになります。

経費付替えシステムの導入

経費付替えシステムが有効に設定されると、AssetCenterは自動的に処理を実行します。

経費付替えシステムを使用するには、**【ファイナンス / 経費付替え】**メニューを選択します。

メインリストの各行は1つの経費付替えシステムを指しており、各行には標準のフィールドが表示されます。ポップアップメニュー**【リストの設定】**を使うと、リストに表示されるフィールドを選択できます。

システムを作成する際には、詳細画面の上部にある**【タイトル】**（SQL名：Name）フィールドを使って、システムに名前を付けます。システムは、1つまたは複数の経費付替え規則に従って金額を配賦します。この規則は、各システムの**【全般】**タブの**【開始】**（SQL名：dtStartDate）と**【終了】**（SQL名：dtEndDate）の必須フィールドで設定された規則の有効期間内に適用されます。


【規則優先度の使用】チェックボックスをオンにすると、システム用の各規則に優先度が指定され、その優先度に応じて規則が適用されるようになります。

【全般】タブ内のリストには経費付替え規則が含まれます。1つまたは複数の規則全体が経費付替えシステムを構成します。

重要項目:

同一期間用に複数の経費付替えシステムが存在する場合、1つの経費明細を一回以上経費付替え処理することができます。複数の経費付替えシステム間に矛盾がないか確認してください。

経費付替え規則を定義する

経費付替えシステムに経費付替え規則を追加するには、**【全般】**タブの**【経費付替え規則】**のリストで右クリックすると表示されるポップアップメニューから**【リンクの追加】**を選択します。または、をクリックします。

規則は、1つまたは複数の経費付替え明細の作成に必要な条件とパラメータを指定します。

まず規則の詳細画面の上部にある**【タイトル】**（SQL名：Name）フィールドを使って、規則に名前を付けます。**【経費付替えシステム】**（SQL名：Cbksystem）フィールドには、規則の所属先の経費付替えシステムの名前が表示されます。

【規則適用】チェックボックスをオンにすると、システムの規則が適用されません。

同一システムに複数の規則がある場合、**【優先度】**（SQL名：sPriority）フィールドでは、この規則が適用される優先度の順番を指定できます。**【手動承認】**

チェックボックスをオンにすると、現在の規則により実行される経費付替えを、画面で直接手動で確定できます。

【全般】タブの【開始】（SQL名：dtRentStartDate）と【終了】（SQL名：dtRentEndDate）フィールドでは、規則の有効期間を指定できます。この有効期間は、経費付替えシステムの有効期間内に含まれていなければならないため、規則のデフォルトの有効期間はシステムの有効期間と同一です。

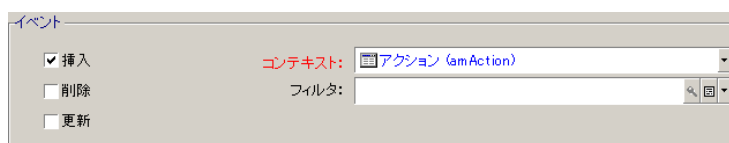
経費付替え規則には、以下の3つのコンポーネントがリンクされています。

- 規則の適用の条件となるイベント
- 経費付替えされる金額の計算
- 配賦方法

【全般】タブには、規則作成の5つの段階用に5つの枠が表示されます。

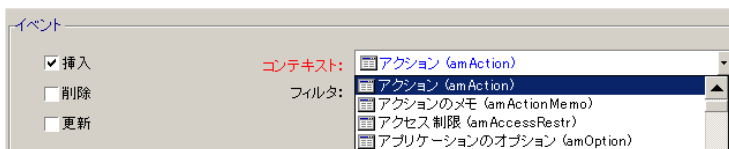
イベントを指定する

- 1 使用するアクションのタイプに対応するオプションを選択します。



- 【挿入】を選択すると、イベントに関連するテーブル内にレコードが挿入された時に規則が適用されます。
- 【削除】を選択すると、イベントに関連するテーブルからレコードが削除された時に規則が適用されます。
- 【更新】を選択すると、イベントに関連するテーブル内の1フィールドの値が変更する時に、規則が適用されます。

- 2 イベントが関連するコンテキスト用テーブルを選択します。



- 3 フィルタを作成 (🔍) または選択 (📄) し、選択されたテーブルの一部のみにイベントが関連するようにします。

通常の方法で新規フィルタを作成します。フィルタ条件に一致するレコード集合が、フィルタにより生成されます。

- 4 選択されたテーブルのオブジェクトのツリー構造のリストから、1フィールドを選択します。

【フィールド】は、フィールドの更新イベントを選択した場合、つまり【更新】チェックボックスを選択した場合にのみ表示されます。

金額を計算する

- 1 【**基準金額**】（SQL名：seAmountRule）のドロップダウンリストから基準金額の計算方法を選択します。
 - 【**経費明細**】を選択すると、経費明細のリストに挿入された経費明細の借方または貸方を請求し、経費付替え処理します。

注意:

この計算方法は、【**経費明細**】（SQL名：amExpenseLine）テーブルに関連するイベントとして【**挿入**】を選択した場合にのみ選択可能です。

- 1 【**税金を含める**】を選択すると、挿入される各経費明細用に定義された税金を、金額に含めることができます。
 - 2 1以外の数の【**係数**】（SQL名：dMarkupCoef）を入力すると、経費付替えされる金額（経費明細の借方または貸方、税込みまたは税抜きの金額）にこの係数が掛けられます。
 - 3 経費付替え金額に追加される【**固定マージン**】（SQL名：mFixedMarkup）を入力します。
- 【**フィールド**】を選択すると、イベントに関連するテーブルの1フィールドの金額値が経費付替えされます。
 - 1 【**選択フィールド**】（SQL名：AmountField）に、選択されたテーブルのオブジェクトのリストがツリー構造で表示されます。ここから金額タイプのフィールドを選択します。
 - 2 1以外の数の【**係数**】（SQL名：dMarkupCoef）を入力すると、経費付替えされる金額にこの係数が掛けられます。
 - 3 経費付替え金額に追加される【**固定マージン**】（SQL名：mFixedMarkup）を入力します。
 - 【**定額**】を選択すると、この規則内では固定額が経費付替えされます。

- 1 キーボードまたはマウスで **【定額】** (SQL名: mFixedAmount) フィールドに金額を入力します。
- **【スクリプト】** を選択すると、Basicスクリプトが基準金額を計算します。
 - 1 をクリックして既定の **スクリプト(金額)** (SQL名: AmountScript) を選択します。または をクリックしてスクリプトを作成し、**【新規作成】** をクリックします。
Basicスクリプトは数式の計算結果に基づいて金額を作成します。数式で使われるデータベースの値は、規則が適用されるたびに評価されます。

コストカテゴリを入力する

コストカテゴリを指定するには、3つの計算方法があります。**【計算規則】** フィールド (seCostCatRule) には、以下のオプションがあります。

- **【リストから選択】**: この計算方法を使用する場合は、**【名前(コストカテゴリ)】** フィールドのドロップダウンリストからコストカテゴリを選択します。
この規則で生成される経費付替え明細を、様々な基準に従って分類するために(請求書などで)、このリストデータに内容を追加することもできます。
- **【データベースで選択】**: この計算方法を使用する場合は、**【コストカテゴリ】** フィールドへのパスを指定します。
- **【計算】**: この計算方法を使用する場合は、コストカテゴリを指定するスクリプトを **【スクリプト(コストカテゴリ)】** フィールド内に入力します。





配賦先コストセンタを指定する

配賦先コストセンタを指定するには、4つの計算方法があります。

- コストセンタのリストから特定の配賦先コストセンタを選択し、金額を経費付替えする場合
 - 1 **【計算規則】** (SQL名: seAllocationRule) フィールドで **【リストから選択】** を選択します。
 - 2 **【名前(コストセンタ)】** (SQL名: TargetCostCenterId) フィールドのドロップダウンリストから、コストセンタを選択します。
- 1つの配賦先コストセンタに金額を経費付替えする場合
 - 1 **【計算規則】** (SQL名: seAllocationRule) フィールドで **【コストセンタ】** を選択します。
 - 2 **【配賦先コストセンタ】** (SQL名: TargetCostCenter) フィールドで、**【コストセンタ】** フィールドへのパスを指定します。

 注意:

必要なコストセンタを見つけるには、テーブルのリンク内を検索するため、テーブル間のツリー構造を把握している必要があります。コストセンタはツリー構造内の複数のノード下にあるため、ノードを見つけた上で、コストセンタを選択しなければなりません。

- 複数のコストセンタに経費付替え金額を分割する場合。規則はイベントごとに複数の経費明細を作成します。
 - 1 **【計算規則】** (seAllocationRule) フィールドで **【分割処理】** を選択します。
 - 2  をクリックして既定の **【分割処理規則】** (SQL名: SplitRule) を選択します。または  をクリックして規則を作成し、**【新規作成】** をクリックします。
- 配賦先コストセンタをスクリプトで定義する場合
 - 1 **【計算規則】** (SQL名: seAllocationRule) フィールドで **【スクリプト】** を選択します。
 - 2  をクリックして既定の **【スクリプト】** (SQL名: AllocationScript) を選択します。または  をクリックしてスクリプトを作成し、**【新規作成】** をクリックします。

スクリプトは配賦率と配賦先コストセンタを指定します。

経費付替えシステムのイベントを解決する

ユーザがトリガした規則が完全に適用されない場合、新規のイベントが作成されるとユーザに通知されます。イベントは、システムの詳細画面の **【イベント】** タブにあるテーブルに自動的に追加されます。このイベントのリストを見ることができるのは管理者のみです。

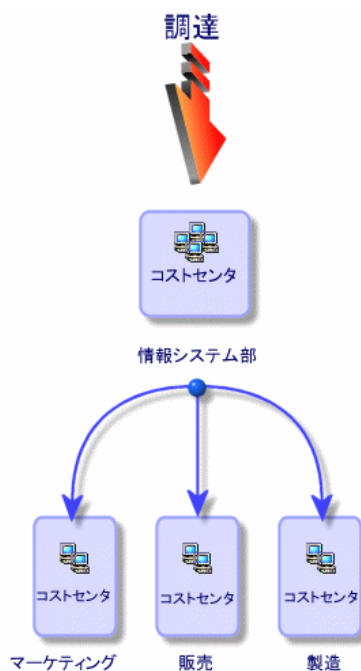
- 1 管理者は、停止された規則から発生したイベントと、手動で確定しなければならない経費付替え明細を作成するイベントを、識別する必要があります。
- 2 前者のイベントを解決するには、**【ソース】** をクリックし、表示されるウィンドウ内の値を変更してから **【再適用】** をクリックします。
- 3 ウィザードを使用すると、後者のイベントの経費付替え明細を確定できます。イベントは自動的に解決済であると表示されます。

実用例

この実用例では、経費付替えの典型的な操作を段階を追って説明します。

シナリオの背景：ある企業の情報システム部がコンピュータのインストール用コストを、マーケティングコストセンタ、販売コストセンタ、製造コストセンタの3つに経費付替えして請求するとします。これには、ポートフォリオに含まれるデスクトップコンピュータに適用される経費付替えシステムを、AssetCenterで定義しなければなりません。これらのコンピュータのコストセンタ「情報システム部」は、マーケティング、販売、製造になります。


図 6.1. 経費付替えの背景



- 1 [ファイナンス/コストセンタ]メニューを選択します。


- 2 【新規作成】をクリックします。

- 3 【作成】（連続）をクリックして、情報システム部コストセンタと、その従属コストセンタである3つのコストセンタを作成し、「マーケティング」、「販売」、「製造」と名前を付けます。
- 4 【作成】をクリックしてから【閉じる】をクリックします。
これで4つのコストセンタが設定されました。
- 5 【ポートフォリオ/ポートフォリオ品目】メニューを選択し、インストールするコンピュータを選択します。
- 6 【全般】タブ内で、コンピュータを「情報システム部」コストセンタに割り当てます。
変更を確定してから画面を閉じます。
- 7 【ファイナンス/経費付替え】メニューを選択します。
- 8 【新規作成】をクリックします。

- 9 **【作成】**をクリックします。
- 10 をクリックし、「コンピュータのインストール」規則を定義します。

The screenshot shows the configuration interface for a rule titled 'コンピュータのインストール' (Computer Installation). The '経費付替えシステム' (Expense Replacement System) is set to 'インストール' (Install). The priority is '1'. The start date is '2002/03/20' and the end date is '2003/03/19'. Under the 'イベント' (Event) section, '挿入' (Insert) and '削除' (Delete) are unchecked, while '更新' (Update) is checked. The 'コンテキスト' (Context) is 'ポートフォリオ品目 (amPortfolio)', the 'フィルタ' (Filter) is '割当 - 情報システム部' (Allocation - Information Systems Dept), and the 'フィールド' (Field) is 'User'. The '金額の計算' (Amount Calculation) section has '基準金額' (Reference Amount) set to '定額' (Fixed Amount) with a value of '¥10,000'. The 'コストカテゴリ' (Cost Category) section has '計算規則' (Calculation Rule) set to 'リストから選択' (Select from list) and '名前コストカテゴリ' (Name Cost Category) set to 'その他のIT' (Other IT). The '配賦先コストセンタ' (Allocation Target Cost Center) section has '計算規則' (Calculation Rule) set to 'コストセンタ' (Cost Center) and '配賦先コストセンタ' (Allocation Target Cost Center) set to 'User.CostCenter'. The '配賦元コストセンタ' (Allocation Source Cost Center) section has '計算規則' (Calculation Rule) set to 'リストから選択' (Select from list) and '名前コストセンタ' (Name Cost Center) set to '情報システム部' (Information Systems Dept).

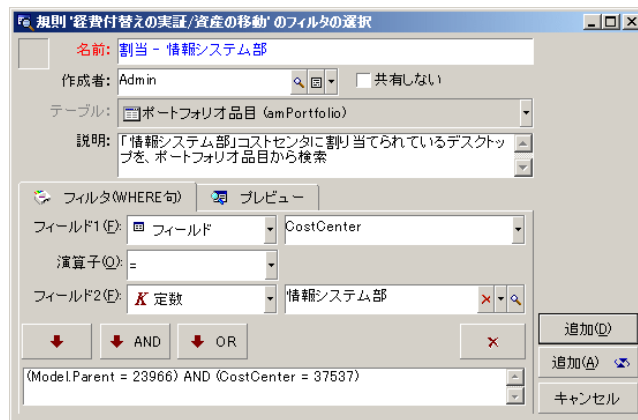
以下の手順に従って、経費付替え規則用のフィルタを作成します。

- 1 **【フィルタ】**フィールドのをクリックします。
- 2 「**割当 - 情報システム部**」という名のフィルタ (SQL名 : Query) を作成します。

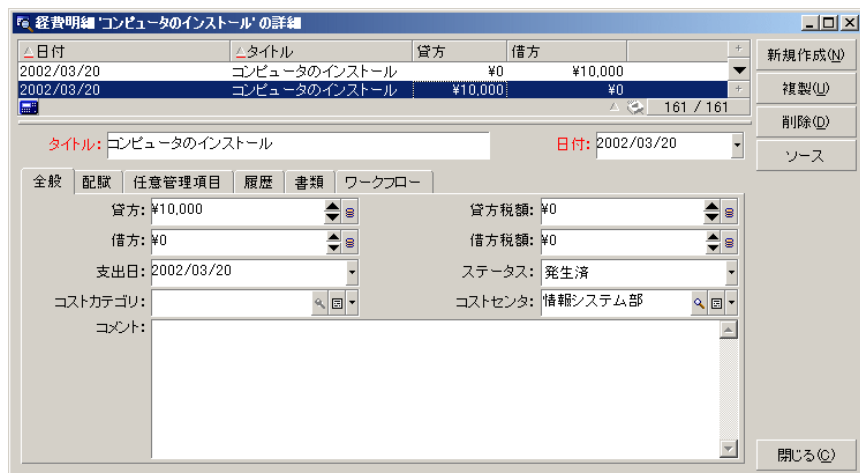
このクエリは、ポートフォリオ品目から、コストセンタ「情報システム部」に割り当てられているデスクトップコンピュータを検索します。これらのコンピュータは、マーケティング、販売、製造の配賦先コストセンタへ経費付替えされます。

このフィルタでは以下の2つの条件を指定します。

- リンク **【コストセンタ】** (SQL名 : CostCenter) には、「**情報システム部**」を選択します。
- **【親モデル】** (SQL名 : Model.Parent) リンクには、「**デスクトップ**」を入力します。



- 11 【ファイル/データベースに接続】メニューを選択して、新規にデータベースに接続します。
- 12 【ポートフォリオ/ポートフォリオ品目】メニューを選択し、「情報システム部」コストセンタに割り当てられているデスクトップを選択します。インストールが経費付け替えされるように、デスクトップをマーケティング、販売、製造コストセンタへ割り当てます。
- 13 【変更】をクリックしてコストセンタを変更すると、2つの新規経費明細が作成されます。1つは貸方のコストセンタ（情報システム部コストセンタ）用で、もう1つは借方のコストセンタ（マーケティングコストセンタ）用です。



7 | 用語解説（ファイナンス）

経費

会計年度

予算に関連する時間区分。

会計年度を、複数**期間**の集まり単位で区切ることができます。**期間**の集まりは**期間区分**に相当します。

例

2003年会計年度

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

会計年度（SQL名：amFinancialYear）

期間区分

期間区分は、会計年度を複数の期間の集まり単位で分割する方法です。同じ会計年度用に、複数の期間区分が存在することもあります（上半期/下半期、四半期ごと、など）。

期間区分は予算分類と共に、予算の範囲を限定するために使用されます。予算を期間区分に関連付けることにより、予算を間接的に会計年度に関連付けることとなります。

例

- 2003年会計年度 - 6ヵ月ごとの期間区分
- 2003年会計年度 - 3ヶ月ごとの期間区分

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

期間区分 (SQL名 : amFYDivision)

期間

期間区分の一部を成す1時間区分

期間区分の、ある期間の後に別の期間が開始するようになっており、期間が重複することはありません。

期間区分の複数の期間全体をまとめると、1会計年度になります。

例

2003年第1四半期

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

期間 (SQL名 : amPeriod)

予算分類

予算分類 / 予算カテゴリ / コストカテゴリの階層構造の中で最も大きな分類単位

予算分類は予算カテゴリに区分されます。

予算分類は期間区分と共に、予算の範囲を限定するために使用されます。

例

「出張」予算分類は、以下の予算カテゴリに区分されます。

- 国内出張
- 海外出張

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

予算分類 (SQL名 : amBudgClass)

予算カテゴリ

予算分類 / 予算カテゴリ / コストカテゴリの階層構造内で使用される中間の分類単位

予算カテゴリはコストカテゴリに区分されます。

予算カテゴリは、コストカテゴリよりも大きな単位で経費内容を分類します。

例

「国内出張」予算カテゴリは、以下のコストカテゴリに区分されます。

- 札幌出張
- 大阪出張

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

予算カテゴリ (SQL名 : amBudgetCategory)

コストカテゴリ

予算分類 / 予算カテゴリ / コストカテゴリの階層構造の内の最小の分類単位

コストカテゴリは予算カテゴリにまとめられています。

コストカテゴリは、経費を分類するために使用されます。

経費明細をコストカテゴリに関連付けることができます。これにより、経費の内容を管理できるようになります。

例

以下のコストカテゴリは、予算カテゴリ「国内出張」内にまとめられています。

- 札幌出張
- 大阪出張

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

コストカテゴリ (SQL名 : amCostCategory)

予算

予算では収入と支出を以下の要素の組み合わせで区分して管理します。

- 期間区分 (例えば1財政年度に当たります。)
これにより予算の会計年度を定義できます。
- 予算分類

予算は予算センタ内で作成されます。

例

- 2001年出張
- 2002年機材購入

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

予算 (SQL名 : amBudget)

コストセンタ

コストセンタは、企業の各部署の経費全体をまとめ、管理するために使用されます。

予算を管理する場合、コストセンタは予算センタの一部を構成する必要があります。

例

- 情報システム部
- 東京本社営業

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

コストセンタ (SQL名 : amCostCenter)

予算センタ

予算センタは予算とコストセンタから構成されます。

予算センタの範囲は、ある期間の特定の内容の経費によっては限定されません。特定の期間の特定の内容の経費に関連付けられるのは予算です。

予算センタは、全コストセンタの経費を計画し管理します。

例

研究開発予算センタには以下の9つの予算があります。

2001年出張	2001年機材購入	2001年研修
2002年出張	2002年機材購入	2002年研修
2003年出張	2003年機材購入	2003年研修

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

予算センタ (SQL名 : amBudgCenter)

経費明細

経費の完全な詳細 (貸方、借方、日付、税金など)

例

以下の要素をもとに経費明細が作成されます。

- 購入
- 作業指示
- 経費付替え
- 研修
- 賃貸料

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費明細 (SQL名 : amExpenseLine)

通貨

金額値の表記に使用される通貨。

例

- ユーロ
- ドル

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

通貨 (SQL名 : amCurrency)

為替レート

2通貨間の為替レート。

為替レートは、金額値を複数の通貨に換算する際に使用されます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

為替レート (SQL名 : amCurRate)

減価償却

減価償却

資産の減価償却では、資産の価値の減少を費用として算入します。

AssetCenterでは固定資産の経理上の減価償却を推算できます。

これは見積り算定に過ぎません。AssetCenterは、法律上の目的で使用される情報を含む会計ソフトウェアの代用は果たしません。

しかし、AssetCenterデータベースの情報を会計ソフトウェアの情報と比較することも有用です。これは、AssetCenterを使用する資産管理者のほうが、固定資産の状況をより正確に把握することができるからです。

AssetCenterでは以下の内容を定義または計算できます。

- 減価償却方法（定額法、定率法、耐用年数）
- 減価償却基準
- 減価償却金額
- 残存価額

例

- 定額法による減価償却
- 定率法による減価償却

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

- 資産（SQL名：amAsset）
- 固定資産（SQL名：amFixedAsset）

減価償却引当金

使用または時間の経過による固定資産値の減少を費用として算入するめに、損益計算書に計上される費用。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

減価償却引当金（SQL名：amDprLine）

固定資産

企業が使用する高価な資産を指します。固定資産は、減価償却の対象となり得ます。

AssetCenterは固定資産を記録しますが、会計ソフトウェアの代用は果たしません。

AssetCenterデータベースの情報を会計ソフトウェアの情報と比較することも有用です。これは、AssetCenterを使用する資産管理者のほうが、固定資産の状況をより正確に把握することができるからです。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

固定資産 (SQL名: amFixedAsset)

税金

税区分

同一の税率が適用される税区域を指します。

例

多くの場合、税区分は地理上の区分と同一です。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

税区分 (SQL名: amTaxJuris)

税金

国家や地方自治体が一定の出費から徴収する金額。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

- 資産の賃貸料 (SQL名: amAssetRent)
- 契約賃貸料 (SQL名: amCntrRent)
- 発注明細 (SQL名: amPOrdLine)
- 請求明細 (SQL名: amInvoiceLine)
- 依頼明細 (SQL名: amReqLine)
- 経費明細 (SQL名: amExpenseLine)
- 資産 (SQL名: amAsset)
- 調整項目 (SQL名: amAdjustment)
- 契約 (SQL名: amContract)
- サプライヤの請求書 (SQL名: amInvoice)
- 発注 (SQL名: amPOrder)

- 依頼 (SQL名: amRequest)
- 研修 (SQL名: amTraining)
- 作業指示 (SQL名: amWorkOrder)

税率

ある税区分の税金の計算に使用されるパーセンテージ。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

税率 (SQL名: amTaxRate)

税金の計算式

税金金額を計算するために使用されるスクリプト。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

税金の計算式 (SQL名: amTaxFormula)

TCO

TCO

Total Cost of Ownershipは、設備 / 備品 (一般的にコンピュータ) の所有にかかる年間の総コストを指します。

TCOにはハードやソフトウェアの購入価格、メンテナンス費、アップグレードの費用、またコンピュータの管理に必要な人件費や設備費 (ホットライン、ヘルプデスク、修理、アシスタントなど) が含まれます。

経費付替え

経費付替え

配賦元コストセンタから配賦先コストセンタに、経費を再び配賦することを指します。

例

- メンテナンスコストの経費付替え

経費付替えシステム

経費付替え明細の生成を自動化する経費付替え規則の集合。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費付替えシステム (SQL名 : amCbksystem)

経費付替え規則

経費明細を生成する以下のパラメータの集合

- トリガ条件
- 配賦元コストセンタと配賦先コストセンタ
- 経費付替え金額の計算方法

経費付替えシステムが経費付替え規則を導入します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費付替え規則 (SQL名 : amCbkrule)

経費付替えスクリプト

経費付替え明細の金額を計算するために経費付替え規則が使用するスクリプト。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費付替えスクリプト (SQL名 : amCbksScript)

経費付替えイベント

経費付替え規則が自動的に発生させる経費付替えの原因。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費付替えイベント (SQL名 : amCbksStoredEvent)

分割処理

1つの経費明細を、複数のコストセンタに分割して配分することを指します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

コストセンタの分割処理 (SQL名 : amCCSplit)

分割処理規則

分割処理規則は経費付替え規則内で使用されています。分割処理規則は、複数のコストセンタ間で経費を分割配分する方法 (どのコストセンタにどのパーセンテージを割り当てるか) を定義します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

分割処理規則 (SQL名 : amCbksSplitRule)

8 | 参考情報

メニューとタブページ (ファイナンス)

ファイナンスモジュールは以下のメニュー、タブ、フィールドとリンクを使用します。

表 8.1. メニューとタブページ (ファイナンス) - 一覧

サブメニュー	メニューからアクセスできるテーブルの名前とSQL名	タブ、枠、フィールドリンク	コメント	関連するマニュアルの章
--------	---------------------------	---------------	------	-------------

[ファイル]メニュー

サブメニュー	メニューからアクセスできるテーブルの名前とSQL名	タブ、枠、フィールドリンク	コメント	関連するマニュアルの章
モジュールの起動	なし	なし	ライセンスファイルに許可されていればファイナンスモジュールを選択/非選択できます。以下のモジュールが非表示の場合は、このメニューを使用します。	マニュアル『はじめに』の、「ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする」の章、「モジュールを起動する」の節を参照してください。
[ファイナンス]メニュー				
会計年度	会計年度 (amFinancialYear)	すべて		「経費」章、「予算」節、「インプリメンテーション方法」
コストカテゴリ	コストカテゴリ (amCostCategory)	すべて		「経費」章、「経費の概要」節、「予算」
予算分類	予算分類 (amBudgClass)	すべて		「経費」章、「経費の概要」節、「予算」

サブメニュー	メニューからアクセスできるテーブルの名前とSQL名	タブ、枠、フィールドリンク	コメント	関連するマニュアルの章
予算センタ	予算センタ (amBudgCenter)	すべて		「経費」章、「経費の概要」節、「予算」
コストセンタ	コストセンタ (amCostCenter)	すべて		「経費」章、「経費の概要」節、「コストセンタ」
経費明細	経費明細 (amExpenseLine)	すべて		「経費」章、「経費明細」節
経費付替え	経費付替えシステム (amCbkSystem)	すべて		「経費付替え」の章、「経費付替えシステムの導入」の節
固定資産	固定資産 (amFixedAsset)	すべて		「固定資産を関連付ける」の章
減価償却の計算式	減価償却の計算式 (amDeprScheme)	すべて		なし
税区分と税率	税区分 (amTaxJuris)	すべて		「税金」の章、「場所に応じて税金を指定する」の節
計算式	税金の計算式 (amTaxFormula)	すべて		「税金」の章、「概念と実用例」の節「税金の計算式」
通貨	[通貨] (SQL名: amCurrency) テーブル	すべて		「金額値」の章
為替レート	[為替レート] (SQL名: amCurRate) テーブル	すべて		「金額値」の章、「為替レート」の節
[ポートフォリオ]メニュー				
ポートフォリオ品目	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	[全般] タブの [コストカテゴリ] リンクと [コストセンタ] リンク		マニュアル『ポートフォリオ』の「ポートフォリオ品目」の章を参照してください。
資産とロット	資産 (amAsset)	[固定資産] タブと [コスト] タブ		「経費付替え」の章、「実用例」の節

サブメニュー	メニューからアクセスできるテーブルの名前とSQL名	タブ、枠、フィールドリンク	コメント	関連するマニュアルの章
社内依頼	依頼 (amRequest)	[全般] タブの [コストセンタ] リンク		マニュアル『ポートフォリオ』の「ポートフォリオ品目」の章、「ポートフォリオ品目の移動」の節を参照してください。
モデル	モデル (amModel)	[会計] タブ		マニュアル『ポートフォリオ』の「ポートフォリオ品目」の章、「モデル」を参照してください。
場所	場所 (amLocation)	[全般] タブの [コストセンタ] リンク		マニュアル『ポートフォリオ』の「概要」の章、「ポートフォリオ品目のコンテキスト情報とトラッキング情報」の節を参照してください。
部署と従業員	従業員 (amEmplDept)	[全般] タブの [コストセンタ] リンク [コスト] タブ		マニュアル『ポートフォリオ』の「概要」の章、「ポートフォリオ品目の主要テーブル」の節を参照してください。
研修	研修 (amTraining)	[全般] タブの [配賦] 枠		「参考情報」の章、「税金」の節
プロジェクト	プロジェクト (amProject)	[全般] タブの [予算センタ] リンク		マニュアル『ポートフォリオ』の「作業指示とプロジェクト」の章、「プロジェクト」を参照してください。

サブメニュー	メニューからアクセスできるテーブルの名前とSQL名	タブ、枠、フィールドリンク	コメント	関連するマニュアルの章
作業指示	作業指示 (amWorkOrder)	[取得] タブの [コストカテゴリ] リンクと [コストセンタ] リンク [コスト] タブ		「TCO (総所有コスト)」の章 「TCOの評価」の節「作業指示を使った内部管理費の詳細情報」
[調達] メニュー				
購入依頼	依頼 (amRequest)	[全般] タブの [コストセンタ] リンク		「税金」の章、 「税金管理が必要な分野」の節
発注と見積	発注 (amOrder)	[ファイナンス] タブの [配賦] 枠		「税金」の章、 「調達サイクルで税金を使う」の節
[契約] メニュー				
契約	契約 (amContract)	[全般] タブの [コストカテゴリ] リンクと [コストセンタ] リンク [ローン] タブの [ローンの配賦] 枠 [コスト] タブ		「経費」章、 「経費明細」節
リース明細	契約 (amContract)	[全般] タブの [コストカテゴリ] リンクと [コストセンタ] リンク [ローン] タブの [ローンの配賦] 枠 [賃貸料] タブの [契約賃貸料に応じて割当] 枠 [コスト] タブ		「経費」章、 「経費明細」節
[ツール] メニュー				

サブメニュー	メニューからアクセスできるテーブルの名前とSQL名	タブ、枠、フィールドリンク	コメント	関連するマニュアルの章
レポート機能 / レポート	レポート (amReport)	なし		「参考情報」の章、「レポートと書式(ファイナンス)」の節
アクション / 編集	アクション (amAction)	なし		「参考情報」の章「アクションとウィザード(ファイナンス)」の節
アクション / <アクションの名前>		なし	コンテキストアクションまたはコンテキスト外アクションにアクセスできます。 選択されたアクションをトリガします。	「参考情報」の章「アクションとウィザード(ファイナンス)」の節
ツールバーのカスタマイズ		なし	ツールバーのアイコンを表示 / 非表示にします。	「参考情報」の章、「ツールバーのアイコン(ファイナンス)」の節
[管理] メニュー				

サブメニュー	メニューからアクセスできるテーブルの名前とSQL名	タブ、枠、フィールドリンク	コメント	関連するマニュアルの章
画面一覧	なし	なし	メニューからアクセスできないテーブルを表示します。	マニュアル『はじめに』の「AssetCenterを初めて使用する」の章、「レコードリスト」の節の「リストを使う」を参照してください。
リストデータ	リストデータ (amItemizedList)	なし		「参考情報」の章、「リストデータ(ファイナンス)」の節
カウンタ	カウンタ (amCounter)	なし		「参考情報」の章、「カウンタ(ファイナンス)」の節

ツールバーのアイコン (ファイナンス)

ツールバーに表示されるアイコンの中には、ファイナンスモジュールに固有のものがいくつかあります。

アイコンのリストを表示して、ツールバーに追加するには、次の手順に従います。

- 1 [**ツール/ツールバーのカスタマイズ**] メニューを選択します。
- 2 [**ツール**] タブを選択します。
- 3 [**カテゴリ**] のリストから [**ファイナンス**] を選択します。

ツールバーのカスタマイズに関する詳細は、マニュアル『はじめに』の「**ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする**」の章、「**ツールバーをカスタマイズする**」の節を参照してください。

インタフェースのオプション (ファイナンス)

ファイナンスモジュール用のインタフェースオプションはありません。

テーブル (ファイナンス)

ファイナンスモジュールでは、多数のテーブルを使用します。
ファイナンスモジュールで使用するテーブルの一覧は以下の通りです。

表 8.2. テーブル (ファイナンス) - 一覧

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
ファイナンスモジュールに直接関連するテーブル			
予算	amBudget	[ファイナンス / 予算センタ]メニューの[全般]タブ	「経費」章、 「経費の概要」節、「予算」
コストセンタ	amCostCenter	[ファイナンス / コストセンタ]	「経費」章、 「経費の概要」節、「コストセンタ」
予算センタ	amBudgCenter	[ファイナンス / 予算センタ]	「経費」章、 「経費の概要」節、「予算」
予算分類	amBudgClass	[ファイナンス / 予算分類]	「経費」章、 「経費の概要」節、「予算」
期間区分	amFYDivision	[ファイナンス / 会計年度]メニューの[期間区分]タブ	「経費」章、 「経費の概要」節、「予算」
通貨	amCurrency	[ファイナンス / 通貨]	「金額値」の章
減価償却引当金	amDprLine	[ファイナンス / 固定資産]メニューの[減価償却]タブ	
経費付替えイベント	amCbKStoredEvent	[ファイナンス / 経費付替え]メニューの[イベント]タブ	「経費付替え」の章、「経費付替えシステムのイベントを解決する」の節
会計年度	amFinancialYear	[ファイナンス / 会計年度]	「経費」章、 「予算」節、 「インプリメンテーション方法」

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
社内振替	amCbkInvoice	[ファイナンス/経費明細]の[経費付替え]タブの経費付替え明細の詳細画面	
減価償却の計算式	amDeprScheme	[ファイナンス/減価償却の計算式]	
税金の計算式	amTaxFormula	[ファイナンス/減価償却の計算式]	「税金」の章、「概念と実用例」の節「税金の計算式」
固定資産	amFixedAsset	[ファイナンス/固定資産]	「固定資産を関連付ける」の章
税区分	amTaxJuris	[ファイナンス/税区分と税率]	「税金」の章、「場所に応じて税金を指定する」の節
予算明細	amBudgLine	[ファイナンス/予算センタ]の[全般]タブで開く予算の詳細画面の[明細]タブ	「経費」章、「経費の概要」節、「予算」
経費明細	amExpenseLine	[ファイナンス/経費一覧]	「経費」章、「経費明細」節
社内振替伝票明細	amCbkInvLine	[ファイナンス/コストセンタ]の[経費付替え]タブで開く社内振替伝票の詳細の[詳細]タブ	
経費付替え明細	amCbkLine	[ファイナンス/経費一覧]の[経費付替え]タブ	「経費付替え」の章、「経費付替えシステムの導入」の節、「経費付替え規則を定義する」
分割処理明細	amCbkSplitLine	[ファイナンス/経費付替え]の[全般]タブで開く経費付替え規則の詳細画面の[分割処理規則]リンク	「経費」の章、「コストセンタ間での分割処理」の節、「分割処理の詳細設定と計算」

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
期間	amPeriod	[ファイナンス/会計年度]の[期間区分]タブで開く期間区分の詳細画面の[期間]タブ	「経費」章、 「経費の概要」節、 「予算」
経費付替え規則	amCbkRule	[ファイナンス/経費付替え]の[全般]タブ	「経費付替え」の章、 「経費付替えシステムの導入」の節、 「経費付替え規則を定義する」
分割処理規則	amCbkSplitRule	[ファイナンス/経費付替え]の[全般]タブで開く経費付替え規則の詳細画面の[分割処理規則] (SplitRule) リンク	「経費付替え」の章、 「経費付替えシステムの導入」の節、 「経費付替え規則を定義する」の「配賦先コストセンタを指定する」
コストカテゴリ-予算分類の関係	amRelCCatClass	[ファイナンス/コストカテゴリ]の[予算カテゴリ]タブ	
コストカテゴリ	amCostCategory	[ファイナンス/コストカテゴリ]	「経費」章、 「経費の概要」節、 「予算」
予算カテゴリ	amBudgetCategory	[ファイナンス/予算分類]の[予算カテゴリ]タブ	「経費」章、 「経費の概要」節、 「予算」
経費付替えスクリプト	amCbkScript	[ファイナンス/経費付替え]の[全般]タブで開く経費付替え規則の詳細画面の[スクリプト(金額)]リンク (AmountScript) と [スクリプト(配賦)]リンク (AllocationScript)	「経費付替え」の章、 「経費付替えシステムの導入」の節、 「経費付替え規則を定義する」
経費付替えシステム	amCbkSystem	[ファイナンス/経費付替え]	「経費付替え」の章、 「経費付替えシステムの導入」の節

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
為替レート	amCurRate	[ファイナンス/為替レート]	「金額値」の章、「為替レート」の節
税率のタイプ	amTaxType	[ファイナンス/税区分と税率]の[税率]で開く[税率]の詳細画面の[税率のタイプ](TaxType)	「税金」の章、「場所に応じて税金を指定する」の節「税区分の税率のタイプを管理する」
税率	amTaxRate	[ファイナンス/税区分と税率]の[税率]タブ	「税金」の章、「場所に応じて税金を指定する」の節
コストセンタの分割処理	amCCSplit	[ファイナンス/コストセンタ]の[分割処理]タブ	「経費」章、「コストセンタ間での分割処理」節
ファイナンスモジュールに間接的に関連するテーブル			
従業員	amEmplDept	ポートフォリオ/部署と従業員	
レポート	amReport	[ツール/レポート機能/レポート]	「参考情報」の章、「レポートと書式(ファイナンス)」の節
クエリ	amQuery	[ツール/クエリ]	「経費付替え」の章、「実用例」の節

テーブル間の依存関係 (ファイナンス)

ファイナンスモジュールでは、AssetCenterデータベースの数多くのテーブルを使用します。これらのテーブル間には多数のリンクが存在するため、テーブルの入力順を最適化することをお奨めします。

以下で記述する入力順に必ずしも従う必要はありません。AssetCenterでは、リンクするテーブルで欠けているレコードを必要に応じて作成することができます。

💡 ヒント:

為替レートの前に通貨を作成しておくことをお奨めします。しかし為替レートの詳細画面に入力する際に、通貨を仮作成することも可能です。この場合多数のリンクするウィンドウに入力する必要があるため、操作は困難になります。

以下の表にリンクされているテーブルの一覧とレコードの能率的な入力順を示します。

表 8.3. テーブル間の依存関係 (ファイナンス) - 表

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル (テーブル名とSQL名)	コメント
一般テーブル		
1 リストデータ (amItemizedList)	なし	どのリストデータを入力するかを知るためには、「 参考情報 」の章、「 リストデータ (ファイナンス) 」の節を参照してください。
1 従業員 (amEmplDept)	『 主要テーブル 』のマニユアルを参照してください。	
1 場所 (amLocation)	『 主要テーブル 』のマニユアルを参照してください。	
会計用のカテゴリの導入 (経費明細の作成前に)		
1 コストカテゴリ (amCostCategory)	<ul style="list-style-type: none"> 従業員 (amEmplDept) 	この段階では [カテゴリ - 分類の関係] リンク (RelCCatClass) に入力しないでください。
1 コストセンタ (amCostCenter)	<ul style="list-style-type: none"> 従業員 (amEmplDept) 場所 (amLocation) 	

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル (テーブル名とSQL名)	コメント
1 会計年度 (amFinancialYear)	なし	会計年度、期間区分と期間はそれぞれ別々のテーブルに格納されています。しかし、【ファイナンス/会計年度】メニューのみが3つのテーブルへの唯一のエントリポイントになっています。3テーブルはそれぞれリンクし合っています。
2 期間区分 (amFYDivision)		
3 期間 (amPeriod)		
1 予算分類 (amBudgClass)	<ul style="list-style-type: none"> • コストカテゴリ (amCostCategory) 	予算分類と予算カテゴリは別のテーブルに保存されています。しかし、【ファイナンス/予算分類】メニューのみが2つのテーブルへのエントリポイントになっています。2テーブルはそれぞれリンクし合っています。
2 予算カテゴリ (amBudgetCategory)		
3 カテゴリ - 分類の関係 (amRelCCatClass)		
1 予算センタ (amBudgCenter)	<ul style="list-style-type: none"> • 従業員 (amEmplDept) • コストセンタ (amCostCenter) • 期間区分 (amFYDivision) • 予算分類 (amBudgClass) • 期間 (amPeriod) • 予算カテゴリ (amBudgetCategory) 	予算センタ、予算、予算明細はそれぞれ別のテーブルに保存されています。しかし、【ファイナンス/予算センタ】メニューのみが3つのテーブルへのエントリポイントになっています。3テーブルはそれぞれリンクし合っています。
2 予算 (amBudget)		
3 予算明細 (amBudgLine)		
経費付替えの導入 (社内振替伝票の作成前に)		

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル (テーブル名とSQL名)	コメント
1 経費付替えシステム (amCbkSystem)	• コストカテゴリ (amCostCategory)	経費付替えシステム、経費付替え規則、分割処理規則と経費付替えスクリプトは、それぞれ別のテーブルに保存されています。しかし、 【ファイナンス/経費付替え】 メニューのみが4つのテーブルへのエントリポイントになっています。4テーブルはそれぞれリンクし合っています。
2 経費付替え規則 (amCbkRule)		
3 分割処理明細 (amCbkSplitRule)		
4 経費付替えスクリプト (amCbkScript)		
税金管理の導入 (依頼、発注、請求書、契約の作成前に)		
1 税区分 (amTaxJuris)	なし	税区分、税率と税率のタイプはそれぞれ別のテーブルに保存されています。しかし、 【ファイナンス/税区分と税率】 メニューのみが3つのテーブルへのエントリポイントになっています。3テーブルはそれぞれリンクし合っています。
2 税率 (amTaxRate)		
3 税率のタイプ (amTaxType)		
1 税金の計算式 (amTaxFormula)	なし	
通貨管理の導入 (経費明細の作成前に)		
1 通貨 (amCurrency)	なし	
1 【為替レート】 (SQL名 : amCurRate) テーブル	• 【通貨】 (SQL名 : amCurrency) テーブル	
固定資産管理の導入 (固定資産の作成前に)		
1 減価償却の計算式 (amDeprScheme)	なし	
経費の記録		

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル (テーブル名とSQL名)	コメント
1 経費明細 (amExpenseLine)	• コストカテゴリ (amCostCategory)	
2 社内振替伝票 (amCbkInvoice)		
3 経費付替え明細 (amCbkLine)	• コストセンタ (amCostCenter)	
4 社内振替伝票明細 (amCbkInvLine)	• 経費付替えシステム (amCbkSystem)	
5 経費付替えイベント (amCbkStoredEvent)	• 経費付替え規則 (amCbkRule)	
6 コストセンタの分割処理 (amCCSplit)		
7 分割処理明細 (amCbkSplitLine)		
資産の固定価値化		
1 資産 (amAsset)	• 減価償却の計算式 (amDeprScheme)	
2 固定資産 (amFixedAsset)		
3 減価償却引当金 (amDprLine)		

リストデータ (ファイナンス)

フィールドに値を入力する際に、リストデータ (オープン/クローズド) を使って値を選択する場合があります

[管理/リストデータ]メニューを選択して[リストデータ] (SQL名: amItemizedList) テーブルを表示します。

ファイナンスモジュール専用のリストデータは以下の表の通りです。

表 8.4. リストデータ (ファイナンス) - 一覧

リストデータの識別子	リストデータを使って入力するフィールド (フィールド名とSQL名)	フィールドが属するテーブル (テーブル名とSQL名)
amExpLineType	タイプ (Type)	経費明細 (amExpenseLine)
amFixedAstFamily	減価償却 (Depreciation)	経費付替えシステム (amCbkSystem)
amPayment	支払い (Payment)	経費明細 (amExpenseLine)
amTaxFormCategory	カテゴリ (Category)	税金の計算式 (amTaxFormula)

リストデータ使用の詳細については、『AssetCenterの高度な使い方』マニュアルの「リストデータ」の章を参照してください。

特殊フィールド（ファイナンス）

ファイナンスモジュールでは、特殊フィールドを使用しません。

特殊フィールドの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「特殊フィールド」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「スクリプト」の章を参照してください。

APIの使用に関する情報は、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

カウンタ（ファイナンス）

ファイナンスモジュールでは、以下のカウンタを使用します。

これらのカウンタは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

[管理/カウンタ]メニューを選択して[カウンタ]（SQL名：amCounter）テーブルを表示します。

ファイナンスモジュールに直接関連するカウンタは以下の通りです。

表 8.5. カウンタ（ファイナンス）- 一覧

カウンタのSQL名	カウンタを使用するテーブル（テーブル名とSQL名）	カウンタを使用するフィールド（フィールド名とSQL名）
amCostCenter_Code	コストセンタ (amCostCenter)	コード (Code)
amBudget_BudgetNo	予算明細 (amBudgLine)	番号 (BudgetLineNo)
amExpenseLine_ItemNo	経費明細 (amExpenseLine)	アイテム番号 (ItemNo)
amCostCategory_Code	コストカテゴリ (amCostCategory)	コード (Code)

カウンタの詳細については、マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「データベースのカスタマイズ」の節、「フィールドのデフォルト値のカウンタ」を参照してください。

アクションとウィザード (ファイナンス)

ファイナンスモジュールでは複数のアクションを使用します。

[**ツール/アクション/編集**]メニューを選択して[**アクション**] (SQL名 : amAction) テーブルを表示します。

以下の操作を実行すると、ファイナンスモジュールに関連するアクションを容易に検索できます。

- 1 アクションのリストを表示します ([**ツール/アクション/編集**]メニュー)。
- 2 リスト画面で右クリックします。
- 3 [**リストの設定**]メニューを選択します。
- 4 リンク [**ドメイン**] (SQL名 : Domain) をリストの列見出しに追加します。
- 5 [**OK**] をクリックします。
- 6 リストを [**ドメイン**] 列で並べ替えます。
- 7 ファイナンスモジュールのアクションはドメイン「/ファイナンス/*」で識別されます。

アクションの詳細に関しては、マニュアル『**AssetCenterの高度な使い方**』の「**アクション**」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『**AssetCenterの高度な使い方**』の「**スクリプト**」の章を参照してください。

APIの使用に関する情報は、マニュアル『**プログラマーズリファレンス**』を参照してください。

新しいアクションを作成したり、既存のアクションをカスタマイズすることができます。

AssetCenter Serverモジュール (ファイナンス)

複数のコストセンタに経費明細を分割して経費付替えするコストセンタモジュールは、ファイナンスモジュール用です。

このモジュールの詳細については、マニュアル『**管理**』の「**AssetCenter Server**」の章、「**AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する**」の節の「**[コストセンタの経費を分割する (CostCenter)]モジュール**」を参照してください。

システムデータおよび専門分野データ（ファイナンス）

AssetCenterは、以下の標準データパッケージと共に提供されています。

これらのデータパッケージは、以下の2グループに分類できます。

- **システムデータ**：AssetCenterの使用に必須のデータ
- **専門分野データ**：必要に応じて実際に使用するデータベースに挿入できるデータ

このデータは、機能別に分類されています。

- **サンプルデータ**：AssetCenterの使用に慣れるために便利なデータ

ファイナンスモジュールに関連するシステムデータ

システムデータは、ファイナンスモジュールに関連する以下のテーブルのデータを含んでいます。

- **【アクション】**（SQL名：amAction）テーブル

ファイナンスモジュールに関連する**システムデータ**は、AssetCenterと共にインストールされるデモ用データベースに自動的に含まれます。

ファイナンスモジュールに関連する**システムデータ**を実際のデータベースでも使用するには、AssetCenter Database Administratorでこれを指定する必要があります。

ファイナンスモジュールに関連する専門分野データ

ファイナンスモジュールでは、**専門分野データ**にTCOに関連するデータが含まれています。これらのデータを含むテーブルは以下の通りです。

- **【アクション】**（SQL名：amAction）テーブル
- ワークフローに関するテーブル
- **【任意管理項目】**（SQL名：amFeature）テーブル
- **【リストデータ】**（SQL名：amItemizedList）テーブル
- **【属性】**（SQL名：amNature）テーブル

ファイナンスモジュールに関連する**専門分野データ**は、AssetCenterと共にインストールされるデモ用データベースに自動的に含まれます。

ファイナンスモジュールに関連する**専門分野データ**を、実際のデータベースでも使用するようAssetCenter Database Administratorで指定できます。

レポートと書式（ファイナンス）

AssetCenterには書式とレポートが付属しており、これらの一部はファイナンスモジュールに関連しています。

レポートと書式をデータベースで使用できるようにするには、AssetCenter Database Administratorでレポートと書式をインポートする必要があります。

ファイナンスモジュールに関連するレポートのインポートと識別

レポートのインポートの詳細については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章「レポート作成プログラムの操作とインストール」の「既製のCrystal Reportsレポートを実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

ファイナンスモジュールに関連するレポートを識別する方法については、『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章、「モジュールに関連するCrystalレポートの識別」の節を参照してください。

ファイナンスモジュールに関連する書式のインポートと識別

書式のインポートの詳細については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「書式」の章、「既製の書式を実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

ファイナンスモジュールに関連する書式を識別する方法については、『AssetCenterの高度な使い方』の「書式」の章、「モジュールに関連する書式の識別」の節を参照してください。

自動アクション（ファイナンス）

AssetCenterのバックグラウンドで自動的に実行されるアクションについては、『データベース構造』のマニュアルを参照してください。

このマニュアルでは、説明される各テーブルごとに「自動プロセス」の節があります。

API（ファイナンス）

複数のAssetCenter APIはファイナンスモジュールに関連しています。

ファイナンスモジュールに関連するAPIの一覧および説明については、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

特に「索引」の章を参照してください。

- 「使用可能な関数 - 機能：業務」の節
- 「使用可能な関数 - 機能：経費付替え」の節

ビュー（ファイナンス）

ファイナンスモジュール用のデフォルトのビューはありません。

ビューの詳細に関しては、マニュアル『はじめに』の「ビューの使用方法」の章を参照してください。

その他のマニュアル（ファイナンス）

本マニュアルには、ファイナンスモジュールに直接関連する情報のみが記載されています。

本マニュアルに加えて、以下のマニュアルを参照することをお奨めします。

表 8.6. その他のマニュアル（ファイナンス） - 一覧

マニュアル名	ドメイン	フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
インストール	<ul style="list-style-type: none"> • AssetCenterのインストール 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/installbook*.pdf</code> <code>/doc/chm/installbook*.chm</code>
主要テーブル	<ul style="list-style-type: none"> • 部署と従業員 • 場所 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/core*.pdf</code> <code>/doc/chm/core*.chm</code>
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> • ソフトウェアの一般的なUI情報 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/intro*.pdf</code> <code>/doc/chm/intro*.chm</code>
ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> • 資産 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/asset*.pdf</code> <code>/doc/chm/asset*.chm</code>
管理	<ul style="list-style-type: none"> • リストデータ • フィールドのカスタマイズ 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/admin*.pdf</code> <code>/doc/chm/admin*.chm</code>

マニュアル名	ドメイン	フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
フィールドおよびリンクに関する状況依存ヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> データベースのフィールドとリンクの説明 	オンライン	<p>ヘルプにアクセスするには、特定のフィールドまたはリンクを選択してから、以下の操作のうち1つを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 右クリックして、[フィールドのヘルプ]メニューを選択します。 キーボードで [Shift+F1] キーを押します。 [ヘルプ/フィールドのヘルプ]メニューを選択します。
データベース構造	<ul style="list-style-type: none"> データベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスの一覧 AssetCenterが自動的にトリガするエージェント 	<p>テキストファイル</p> <hr/> <p>印刷版</p> <p>オンライン</p>	<ul style="list-style-type: none"> doc/infos/database.txt infos/tables.txt <hr/> <p>/doc/pdf/dbstruct*.pdf</p> <hr/> <p>/doc/chm/dbstruct*.chm</p>
オンラインヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの全機能 	オンライン	<p>ヘルプにアクセスするには、特定のフィールドまたはリンクを選択してから、以下の操作のうち1つを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーボードで [F1] キーを押します。 [ヘルプ/インデックス]メニューを選択します。



October 10, 2002